

日本

# 生理学

雑誌

JOURNAL OF THE PHYSIOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

46巻

12号

1984

特集：生理学談話会の歴史的推移（Ⅱ）

3. 日本生理学会北海道地方会の歩み.....	673
4. 日本生理学会中国・四国地方会の歩み.....	678
5. 西日本生理学会小史.....	681
6. 生理学中部談話会30年史.....	689
7. 東北生理学談話会の歩み.....	694
お知らせ 評議員候補者の推薦について.....	697
第26回藤原賞受賞候補者ご推薦依頼.....	697
第69回近畿生理学談話会御案内.....	697

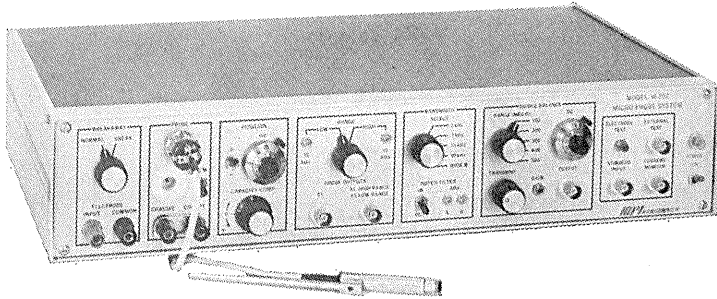
日本生理学雑誌第46巻総目次、人名索引

日本生理誌  
J. Physiol. Soc. Japan

日本生理学会



# 微小電極増幅器 マイクロプローブ・システム MODEL M-707



好評のM701型に、新しくバンド幅フィルター、ブリッジ・バランス選択スイッチ、プローブ・テスト機構が組込まれ、一層使いよくなった最高級の微小電極増幅器です。

- ミニチュア・プローブ
- カレント・インジェクション
- プローブ・テスト
- ブレーク・アウェイ機能付
- バンド幅フィルター付
- ノッチ・フィルター
- 低ノイズ・低ドリフト
- ブリッジ・バランスSW付

日本総代理店

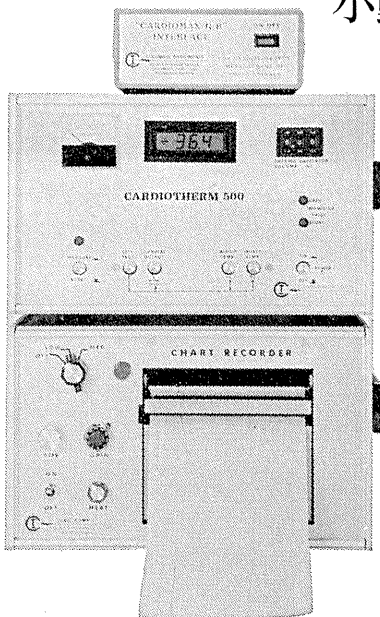


株式会社 **東海医理科**  
TOKAI IRIKA CO., LTD.

本社 〒101 東京都千代田区内神田3-2-12 クリハラビル ☎(03)254-0052代  
札幌(011)757-0176/仙台(0222)75-2514/東京(03)254-0909/金沢(0762)23-4648  
名古屋(052)524-5408/京都(075)241-3908/大阪(06)305-6328/広島(082)293-2163  
愛媛(0899)21-3015/福岡(092)472-3800/鹿児島(0992)57-1711

小動物(ラット)の心拍出量測定が可能!!

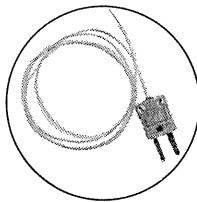
## 熱希釈式心拍出量計 MODEL CARDIOTHERM 500R



米国ロンバス社製熱希釈式心拍出量計(CARDIOTHERM 500R)は超小型のマイクロカテーテルの採用により、小動物(RAT)の心拍出量測定が可能です。また、従来のバルーンカテーテル(スワン・ガンツカテーテル)を使用して、イヌ、ネコなどの測定も行なうことができます。

《特長》

- 安定性の優れたマイクロカテーテル (カテーテルサイズ 1F=0.33, 1.5F=0.5mmφ) によりラットの心拍出量測定が可能。
  - 注入液は室温の生理食塩水を用いるため冷却の必要がありません。
  - 注入量が微量(100μl)で体温低下が少ない。
  - 測定が自動化されていますので操作がきわめて簡単です。
  - 専用レコーダによりクリアランス曲線の記録がとれます。



日本総代理店



株式会社 **東海医理科**  
TOKAI IRIKA CO., LTD.

本社 〒101 東京都千代田区内神田3-2-12 クリハラビル ☎(03)254-0052代  
札幌(011)757-0176/仙台(0222)75-2514/東京(03)254-0909/金沢(0762)23-4648  
名古屋(052)524-5408/京都(075)241-3908/大阪(06)305-6328/広島(082)293-2163  
愛媛(0899)21-3015/福岡(092)472-3800/鹿児島(0992)57-1711

## 生理学談話会の歴史的推移(II)

### 3. 日本生理学会北海道地方会の歩み

広 重 力

(北海道大学医学部生理学第一講座)

日本生理学会北海道地方会の前身は「生理学札幌談話会」にある。終戦のショックからやっとなち直りつつあった昭和24年6月25日に箕島教授の音頭で、第1回生理学札幌談話会が北海道大学医学部会議室でもたれた。当日箕島高教授(現在、北大名誉教授)による「最近の生理学の動向」と題した講演が行われ、役員として天野智恵美(北大名誉教授)、中村治雄(北大名誉教授)(以上、常任幹事)、永井寅雄(札幌医大名誉教授)、寿原健吉(故東京教育大名誉教授)、岩瀬善彦(京都府立医大名誉教授)(以上、幹事)が選ばれている。「札幌談話会」の名が示すように、当時の生理学学会会員は札幌に限定されていた。札幌談話会は昭和25年7月までの約1年間に計8回開かれ、それぞれ、ゲストスピーカーの講演を聴く形で行われていた。

昭和25年の秋に、札幌談話会をやめて、あらためて「日本生理学会北海道地方会」を発足させることになり、その第1回の集会在昭和25年12月9日北大医学部会議室で行われた。地方会ということで一般演題を募集したところ16題が寄せられた。9日午後2時から4時の間には全演題を消化できず、残りは日を改めて発表してもらった。これは口演、討論に制限時間がなかったためであった。すでに生理学における研究意欲が旺んであったことを物語っている。

昭和26年7月に第2回地方会を北大で、同年の12月には第3回の北海道地方会を札幌医大で開催している。第2回は8演題、第3回は16の演題が集っているが、北大医学部、札幌医科大学生理学講座、北大応用電気研究所生理部門からの発表のほか、北大触媒研究所、北大農学部獣医科、札幌医大生化学講座、北大医学部の産婦人科や眼科学講座からの演題も加わっている点

が目をはひく。生理学が医学の基礎科学として根をはっていた証しであろうか。

日本生理学会北海道地方会の発足に先立ち、昭和24年6月25日に、箕島教授の指示で中村治雄助手(当時)が会則草案を作製した。以下に昭和33年に改正された全文を示す。

日本生理学会北海道地方会会則

1. 本会を日本生理学会北海道地方会と称する。
2. 本会の目的は同学者が寄り、生理学の進歩発展と相互の親睦を期するにある。
3. 本会会員は北海道に在住し、本会の趣旨に賛成する同学者より成る。
4. 本会は毎年1回以上、研究発表会並びに総会を開く。なお研究発表会の抄録は日本生理学雑誌に投稿する。
5. 本会に当番幹事をおき本会の事務を取扱う。当番幹事は総会において決定する。任期は1年として、1月に始まり12月に終るものとする。
6. 会費は教室単位の場合年間300円、個人入会の場合には100円とする。

(昭和33年1月25日改正)

この会則を作った当時は少なくとも教室単位の年会費は150円、個人入会費(教室員も含む)100円であったが、のちに現行の教室単位年会費のみになった。昭和33年改正のときはすでに300円、昭和36年には一躍1,000円にはね上っている。その後も値上げを重ね、昭和50年に2,000円、昭和51年に3,000円、昭和53年からは現行の年会費5,000円である。しかし第1条から第5条までの内容はそののち四半世紀にわたり連続として生きつづけてきた。

日本生理学会北海道地方会の主な歩みをまと

めると表のようになる。地方会として意識して回数を数えていたのは昭和30年12月の第8回までで、そのあとはかなりの混乱がみられる。混乱の理由は人事異動のせいもあるが、あわせて昭和33年10月から北海道医学大会に合流したせいでもある。北海道医学大会はこの年すでに第38回を数えていたが、この大会の生理系分科会のメンバーの一つとして日本生理学会北海道地方会が参加することになったのである。この大会は原則として秋に開かれていたため、それまで懇親会をかねて12月に開かれることが多かった地方会が9~10月に移行する形になった。生理系分科会ということで、演題内容も解剖、生化も参加できるわけであるが、実際には生理学会の地方会のメンバーが主力をしめている。生理学者がこの機会に生理系他の分野のトピックスにふれうことはきわめて有意義と思われる。しかし地方会が果してきた懇親会的機能は消失せざるを得なかった。

この点は次の2つの方法で解決がはかられた。一つは箕島杯争奪野球大会のスタートである。第1回の野球大会は昭和33年10月に行われた。以来毎年行われ、昭和45年7月に第13回野球大会が開催された。真夏の太陽のもとで大汗をかき、夕日の落ちるのをまって市内のビアガーデンに全員が集い、表彰式のと大いにビールを傾けながら談笑することになる。箕島高教授のご配慮が、サッポロビールの味とマッチして脈々と会員の血を流れる一時でもある。

このような北海道地方会の最大の特徴ともいえる箕島杯争奪野球大会も次第にスタイルを変えつつあることも事実である。各教室単位で野球チーム編成がむずかしくなったのが最大の原因だが、あるいは会員の平均年齢の上昇のせいもあるか、さらには当番幹事のもっとも得意とする種目をという意図であろうか、昭和46年にボーリング大会が試みられ、好評のせいもあってその後5年間はボーリング大会が続いた。そのあとはバレーボール、ソフトボール、卓球、登山、体力テスト、バトミントンなど多彩である。因みに、新しい種目を採用してすぐ優

勝した当番幹事チームはまだないので、必ずしも得意種目を選んだということはなさそうである。いずれにせよ、優勝チームをたたえる箕島杯授与式はビアガーデンで盛大にとり行われることにはかわりはない。

会員の懇親を図るもう一つの行事は毎年末の12月に開かれる総会とそのあとに続く忘年会である。総会では、いくつかの報告事項や審議事項がとりあげられるが、総会に先立って、講演やトピックスが地方会の行事として行われる。その内容は完全に当番幹事の裁量にまかされており、留学帰りの研究者の経験談、国際会議出席者のトピックス、あるいは各教室の研究紹介、特定分野の研究動向の紹介など様々である。昭和36年の暮れの第16回地方会では、玉重教授のイギリス・欧州視察談、望月教授の欧米視察談、それに藤森教授の欧州視察談が会員に披露されているが、会員が美しいスライドに見とれ、しばし声なしとメモにある。まさに隔世の感がある。最近の15年間は、人事異動がはげしく、新任教授の紹介をかねて12月の例会は特別講演をいただく形に定着しつつある。

北海道地方会がまず「札幌談話会」としてスタートしたことはすでにふれた。当時、医学校は北海道大学医学部と札幌医科大学（昭和25年2月20日に、己存の道立女子医学専門学校を母体として正式に発足した）の2校のみであった。北大医学部では箕島教授が生理学第一講座を、朴沢教授が第二講座を担当されていた。一方、札幌大では永井教授が生理学講座を担当されていたが、昭和30年には宮崎教授が加わった。ともあれ、昭和24年6月にいち早く将来の発展を予想して「北海道地方会」の発足にふみきったのは箕島教授の卓見というほかはない。しかもその時に起草した会則が35年のながきにわたり生きつづけ、地方会の発展をささえてきたのである。

第1回から第8回までの創立期をもとに昭和30年以後、北海道地方会は成長期に入ったといえることができる。それは箕島門下に育った人材が活躍の場を求めて巣立った軌跡でもある。北

大の超短波研究所は昭和21年に現行の応用電気研究所と改称されたが、生理部門には当時小溝協三教授、寿原助教授、岩瀬助手らが、活躍しておられた。そのあとをうけて望月教授が生理部門を担当。昭和29年には新設の北大獣医学部獣医生理学講座に本間(慶)教授が着任した。また昭和30年には北大医学部生理学第二講座に藤森教授が着任し、昭和32年には第一講座に伊藤教授が着任した。いわば人事異動のラッシュ時期でもあった。時をほぼ同じくして、日本生理学会北海道地方会が北海道医学大会生理系分科会のメンバーとして再発足したことはすでに述べた。またこの頃に北大理学部動物生理学教室(玉重教授)も地方会のメンバーとして参加されたことも特筆すべきことと思われる。このようにして、3教室でスタートした「談話会」は、北大応用電気研究所生理部門、北大獣医生理、理学部動物生理、札医大第二生理を加えた。すなわち「地方会」は7教室から成立することになった。さらに昭和43年からは北大獣医薬理学教室(大賀教授)も加わった。

このようにして地方会は10年ほど経過したが、昭和42年に北大歯学部口腔生理学教室に中村教授が初代教授に就任され、また昭和44年には獣医生理に菅野教授が着任した。これらの異動はきたるべき人事異動ラッシュのさきぶれであったろうか。昭和48年に旭川医科大学が新設されるにおよび、第一講座に黒島教授、第二講座に森教授が着任した。北大医学部でも昭和49年に第二講座に加藤教授が、翌年には第一講座に広重が就任した。昭和53年には歯学部生理に

亀田教授が、また東日本学園大学には先任の中村教授とともに新しく猪股教授が着任された。昭和52年には札医大第一生理に藪教授が就任された。昭和50年10月に玉重教授が、55年8月には宮崎教授が急逝され、後任にはそれぞれ久田教授、青木教授が就任した。北大応用電気研究所でも望月教授の転出のあとをうけて小山教授が就任され、メディカルトランスデューサー部門には神谷教授が新たに昭和54年に着任された。すなわち、この10年ほどの間に、北海道地方会の構成単位である教室または部門の主任教授がほとんど入れかわってしまった。このことは教室の構成メンバー、あるいは研究テーマなどの変更をも意味する。一方、地方会を構成する教室も急増し、現在では14教室(部門を含む)になった。昭和30年代の人事異動から20年を経て、第二の人事異動ラッシュがおとずれ、構成単位は7教室から倍増して14教室になったといえる。あえてこの時期を発展期とよぶことができようか。

このような急成長にはひずみがつきものである。生理学会会員は必然的に他の色々な分野に活躍の場をひろげつつある。この場合、地方会加入教室または部門に属さない分野へ転出した会員をどのように拾収していくか。その場合、会員の親睦はいかにして深めていくべきか。会則に謳われた精神をこれまで見事に具現して来られた先達たちに応えるためにも、われわれ現会員はあらためて「地方会」のあり方に思いをいたさねばならない。

表 日本生理学会北海道地方会の歩み

回	年 月	当 番 幹 事	備 考
1	昭和25. 12	箕島 高(会長)	(演題数 16)
2	26. 7		( " 8)
3	26. 12	(宮崎 英 策)	( " 16)
4	27. 12	(岩瀬 善 彦)	( " 17)
(5)	28. 8		「筋の集い」(札医大)
6	29. 3	(中村 治 雄)	( " 14)
7	29. 12	( " )	( " 10)
	30. 6		「生物電気談話会」

第1～7回は箕島会長のもとに会長補佐幹事として( )が運営にあたった。

回	年 月	当 番 幹 事	備 考
8	30. 12	永 井 寅 男	(演題数 18) (会長制廃止, 当番幹事制となる)
	33. 1		会則改正
	33. 7		第1回箕島杯争奪野球大会
9	33. 10	藤 森 聞 一	北海道医学大会(第38回)生理系分科会に合流 (演題数35)
10	33. 12	"	(教室(部門)研究の紹介, 総会, 忘年会)
	34. 7		第2回野球大会
11	34. 9	望 月 政 司	北海道医学大会(第39回)分科会
12	34. 12	"	(演題数 16, 総会, 忘年会)
	35. 6		医学講演会 (ISPS 後援) (Visscher, Fessard, von Euler)
	35. 7		第3回野球大会
13	35. 11	本 間 慶 蔵	北海道医学大会(第40回)分科会
14	35. 12	"	(婦国報告, 総会, 忘年会)
	36. 7		第4回野球大会
	36. 9		講演会(Brooks)
15	36. 10	宮 崎 英 策	北海道医学大会(第41回)分科会
16	36. 12	"	(外国視察談, 総会, 忘年会)
	37. 8		第5回野球大会
17	37. 9	伊 藤 真 次	北海道医学大会(第42回)分科会
18	37. 12	"	(トピックス7題, 総会, 忘年会)
	38. 8		第6回野球大会
19	38. 9	玉 重 三 男	北海道医学大会(第43回)分科会
20	38. 12	"	(国際学会報告3題, 総会, 忘年会)
	39. 7		第7回野球大会
21	39. 9	藤 森 聞 一	北海道医学大会(第44回)分科会
22	39. 12	"	(トピックス3題, 総会, 忘年会)
	40. 7		第8回野球大会
23	40. 9	望 月 政 司	北海道医学大会(第45回)分科会
24	40. 12	"	(各教室のトピックス7題, 総会, 忘年会)
	41. 7		第9回野球大会
25	41. 9	宮 崎 英 策	北海道医学大会(第46回)分科会
26	41. 12	"	(各教室トピックス7題, 総会, 忘年会)
	42. 8		第10回野球大会
27	42. 9	永 井 寅 男	北海道医学大会(第47回)分科会
28	42. 12	"	(演題7, 総会, 忘年会)
	43. 7		第11回野球大会
29	43. 9	本 間 慶 蔵	北海道医学大会(第48回)分科会
30	43. 12	"	(演題7, 総会, 忘年会)
	44. 7		第12回野球大会
31	44. 9	伊 藤 真 次	北海道医学大会(第49回)分科会
32	44. 12	"	(トピックス2題, 総会, 忘年会)
	45. 7		第13回野球大会
33	45. 9	玉 重 三 男	北海道医学大会(第50回)分科会
34	45. 12	"	(講演1題, 総会, 忘年会)
	46. 8		第14回箕島杯体育大会(ポーリング)
35	46. 9	藤 森 聞 一	北海道医学大会(第51回)分科会
36	46. 12	"	(国際生理科学会議トピックス4題, 総会, 忘年会)

回	年 月	当 番 幹 事	備 考
	47. 4		講演会 (Denton, Shaw)
	47. 5		" (Tasaki)
	47. 8		第15回体育大会(ポーリング)
37	47. 10	中 村 治 雄	北海道医学大会(第52回)分科会
38	47. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	48. 8		第16回体育大会(ポーリング)
39	48. 9	望 月 政 司	北海道医学大会(第53回)分科会
40	48. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	49. 7		第17回体育大会(ポーリング)
41	49. 9	宮 崎 英 策	北海道医学大会(第54回)分科会
42	49. 12	"	(国際生理科学会議トピックス, 総会, 忘年会)
	50. 7		第18回体育大会(ポーリング)
43	50. 9	黒 島 晨 汎	北海道医学大会(第55回)分科会
44	50. 12	"	(講演 2 題, 総会, 忘年会)
	51. 7		講演会 (Takeuchi)
	51. 9		第19回体育大会(バレーボール)
45	51. 9	菅 野 富 夫	北海道医学大会(第56回)分科会
46	51. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	52. 2		講演会 (Botelho)
	52. 9		第20回体育大会(ソフトボール)
47	52. 9	永 井 寅 男	北海道医学大会(第57回)分科会
48	52. 12	"	(国際生理科学会議トピックス, 総会, 忘年会)
	53. 8		講演会 (Suga)
	53. 8		第21回体育大会(卓球)
	53. 9		講演会 (Brookhart, Makinose)
49	53. 9	広 重 力	北海道医学大会(第58回)分科会
50	53. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	54. 1		講演会 (Pittendrigh, Arimura)
	54. 8		第22回体育大会(卓球)
51	54. 9	加 藤 正 道	北海道医学大会(第59回)分科会
52	54. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	55. 8		第23回体育大会(野球)
53	55. 9	久 田 光 彦	北海道医学大会(第60回)分科会
54	55. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	56. 7		第24回体育大会(登山)
55	56. 9	森 茂 美	北海道医学大会(第61回)分科会
56	56. 12	"	(講演 2 題, 総会, 忘年会)
	57. 7		第25回体育大会(ポーリング)
57	57. 9	神 谷 瞭	北海道医学大会(第62回)分科会
58	57. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	58. 6		講演会 (Wayland)
	58. 7		第26回体育大会(体力テスト)
	58. 8		講演会 (Sears)
59	58. 9	亀 田 和 夫	北海道医学大会(第63回)分科会
60	58. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)
	59. 4		講演会 (Eccles)
	59. 7		第27回体育大会(バドミントン)
61	59. 9	猪 股 孝 四 郎	北海道医学大会(第64回)分科会
62	59. 12	"	(講演 1 題, 総会, 忘年会)

(注) この記事はもっぱら北海道地方会資料に基づき書いたが、第1回の創立当時から現在まで、地方会の発達を温かく見守って下さってきた中村治雄東日本学園大学教授(北大名誉教授)にご校閲、ご加筆いただいた。また常任幹事である加藤教授にもお目通しいただいた。

## 4. 日本生理学会中国・四国地方会の歩み

### 1. はじめに

岡山大・医・第二生理  
中山 沃

昭和24年10月16日、第1回中・四国地方会が岡山大学医学部の林 香苗教授の当番で開かれて以来今年まで35年の長きにわたって続いてきました。第36回中四国地方会は今年10月16日香川医科大学生理学教室、畠瀬 修、細見 弘両教授の当番で開催され、明年は鳥取大学の及川俊彦、日地康武両教授の当番で開かれる予定になっております。この地方会は瀬戸内海を狭み、中国地方5県、四国地方4県にわたる広い地域ではありますが、地方特有のおおらかさと親密さは独特のものがあると常日頃感じています。最初の頃の地方会では、観光や懇親会があり、秋が待遠しいものでした。5年に1回同じ土地を訪れる関係で、観光、懇親会も次第に姿を消し、淋しくはなりましたが、懇親的役割は果していると思われまふ。本年9月、中・四国地方会についてアンケートを求めました所、回答者数99名中、地方会は存続すべきであるが、83名、発展的解消すべきであるが、16名でした。そしてこの83名のうち「中・四国地区は地域が広く、懇親会的役割も大きい」…44名、「若手研究者の発表の機会として意味がある」…60名、「多会場の生理学会総会と異なり、専門外の分野の研究動向を知ることができる」…49名というように、地方会の存続について前向きな意見が多く、今秋の地方会の評議員会では、存続すべきという積極論が会を支配していました。

この地方会の古いメンバーの徳島大学名誉教授岡 芳包、岡山大学名誉教授福原 武の両先生にお願いし、この会の発足当時や当番をされた頃のことを書いていただいた。

### 2. 中国四国地方会の回顧

徳島大・医・生理  
岡 芳 包

中国四国地方会が生れたのは、昭和24年の秋である。敗戦後の混迷期が漸く過ぎて、食と住はいまだ不満足な状態ではあったが、人心は生気をとり戻しつつあった。その秋口、岡山医大の林 香苗教授から、地方会をこしらえて研究発表会をやらうと呼びかけがあった。戦前、中四国地区の医科大学は岡山だけであったが、戦後、鳥取(米子)と徳島に国立、広島(呉)と山口(宇部)に県立医科大学が設立されたので、林教授は先輩の西丸和義教授とも相談の上で、生理学東京談話会に類する会合を提唱されたわけである。

発会の前夜、岡山医大構内にあった舎監官舎という名の客用宿舎に、広島(西丸和義)、岡山(林 香苗)、鳥取(福原 武)、徳島(岡 芳包)、山口(井上 章)の5大学から教授が集まった。勿論当時は旧帝大と一部の私立医大以外、生理学は1講座であった。この席で、今後毎年秋に開催するが、面倒な規則は作らず、毎回のやり方は当番教授に全面一任し、当番は教授の年齢(卒業年次)の順にするという林教授の提案が諒承された。ただし翌25年春には西丸教授が呉で生理学会の総会を開くことがきまっていたので、地方会の順番は広島を最後にまわすことになった。こんな訳で中国四国地方会は岡山・米子・徳島・山口・広島(呉)の順に開かれることになり、教授の転出・交替や第二講座増設などとは無関係に、昭和51年までそのとおりに続いたが、新設医大の整備が進むにつれて、近年は大学数の比率(中国6、四国4)を勘案しつつ、瀬戸内海を渡っての交互開催になりつつある。

開催日は最初の頃は何となく日曜となっていたが、医師が多数参加する訳でもなし、互いに日帰りがむずかしいのに折角の日曜の安息を犠牲にするには当るまいとの思いつきから、私は

会を金曜に開いたらどうかと提案し、徳島でこれを敢行したところ、その後これが不文律の慣例になってしまった。しかし会のやり方は毎回当番教授に全面一任が原則なので、この曜日が再検討され変更されても、ましてや現役を去った今の私に異存はない。

中国四国地方会は上に述べたように自然発生したが、これが日本生理学会の地区割りに符合して、常任幹事2名の定員が割当てられた。最初は西丸・林両教授がその任に当たったが、西丸教授は、常任幹事は他の学会の理事とは異なり、次々と若い人に交替するのがよいとの信条から数年で辞任して、そのあと福原教授が選ばれ、林教授もそれにならって間もなく辞め、私が後任となった。その私も両教授の考え方に賛同していたので、2期6年間で辞任した。その後暫くはそうでない時代もあったようだが、そのうちに中国四国地区では、常任幹事は2期6年務め、各期毎に1名が交替という選挙結果になって現在におよんでいる。こんな点からも私は中国四国地方会を好ましく感じ、時に応じて更改を加えつつも、良き伝統を磨き上げてほしいと念願している。

### 3. 中・四国地方会初期についての回想

岡山大・医・生理  
福原 武

米子医科大学(後の鳥取大学医学部)での中・四国談話会は昭和25年(1950)11月12日に福原主催の下に開かれました。集まるものは山口(井上 章)、広島(西丸和義)、米子(福原 武)、岡山(林 香苗)、徳島(岡 芳包)諸大学所属の生理学者でした。岡山を除けば、いずれも敗

戦後に創設された大学で、研究設備も、きわめて貧弱、研究者も少なく、若く、未熟でした。

米子では前年度の会での申し合わせ通り、各自の研究について1題十数分間気軽に演説し、気軽に質疑応答するという形式をとりました。そして今も変りないことですが、結局は生理学会総会での研究発表の予行演習となりました。こういう事情で、地方会で話されたことは、もう一度総会で話されていますから、題目や要旨は、その頃の日本生理学雑誌の学会号にのっています。なお米子での談話の題目などは日本生理誌12巻、390-391頁にのっており、20題、参加者は22名でした。

一般に地方では、大学および研究者の数が少ないだけでなく、研究分野がまったく、かけ離れている場合が多く、したがって、これらの人々が集っても、同じ分野に属する問題について切磋琢磨するという意義は余りなく、結局は懇親会的会合に終わってしまいます。しかし、それでも近接の地方に住んでいる生理学者が年に1回くらい集って話し合うのは、よいことではないかと思います。お互に研究だけではなく、いろいろなことについて有益なヒントを与えたり、与えられたりすることも地方会の利点の一つかと思います。

### 4. 中・四国地方会開催の一覧

次に第1回から36回までの開催期日、場所、当番、演題数を表として掲げる。なお第9回では、第8回西日本地方会、第17回は第16回西日本生理学会、第24回は第23回西日本生理学会、第31回は第30回西日本生理学会と合同で開催された。そのため2日間にわたっている。

回	年 月 日	場 所	当 番 幹 事	演 題 数
1	昭和24. 10. 16	岡 山	林 香苗	14
2	25. 11. 12	米 子	福原 武	18, 実験1
3	26. ?	徳 島	岡 芳包	不 明
4	27. 11. 23	宇 部	井上 章	29
5	28. 11. 22	呉	西丸 和義	27, 実験11
6	29. 11. 14		岡 山	林 香苗
7	30. 11. 13	米 子	西田 勇, 山田 守	36
8	31. 11. 10	徳 島	岡 芳包	35
9	32. 11. 30	宇 部	井上 章	49
10	33. 12. 1			
11	33. 11. 22	岡 山	林 香苗, 福原 武	25
12	34. 11. 23	広 島	西丸 和義	37
13	35. 10. 21	米 子	山田 守, 西田 勇	23
14	36. 8. 22	徳 島	岡 芳包, 山野 俊雄	17
15	37. 9. 28	山 口	川端 五郎	25
16	38. 10. 4	広 島	銭場 武彦	22
17	39. 10. 23	岡 山	西田 勇, 福原 武	18
18	41. 1. 26	米 子	山田 守, 及川 俊彦	52
19	41. 11. 18	徳 島	岡 芳包, 松本 淳治	22
20	42. 11. 24	宇 部	曾我美 勝	17
21	43. 10. 17	広 島	菅野 義信	21
22	44. 11. 1	岡 山	福原 武, 西田 勇	17
23	45. 10. 30	米 子	山田 守, 及川 俊彦	17
24	46. 11. 12	高 松	岡 芳包, 松本 淳治	19
25	47. 11. 9	宇 部	村上 憲	53
26	48. 10. 19	広 島	銭場 武彦, 入沢 宏	19, 実験5
27	49. 11. 29	倉 敷	福原 武, 岡田 博匡	27
28	50. 11. 7	米 子	山田 守, 及川 俊彦	28
29	51. 11. 5	徳 島	岡 芳包, 松本 淳治	35
30	52. 10. 18	岡 山	西田 勇, 中山 沃	36
31	53. 11. 11	松 山	志賀 健, 片岡 喜由	37
32	54. 10. 27	宇 部	村上 憲, 長 琢朗	74
33	55. 11. 16	出 雲	前野 巍, 榊村 純生	32
34	56. 10. 9	広 島	入内島十郎	34
35	57. 10. 1	南 国	瀬戸 勝男, 入交 昭彦	34
36	58. 10. 21	倉 敷	松村 幹郎, 岡田 博匡	35
37	59. 10. 12	香川医大	梶瀬 修, 細見 弘	38

(文責：岡山大学医学部第二生理学教室 中山 沃, 昭和59年10月31日記)

## 5. 西日本生理学会小史

後 藤 昌 義

(九州大学医学部生理学教室)

### はじめに

九州地区での生理学会地方会は、昭和24年11月、九州大学医学部の生理学教室で瀬尾愛三郎、問田直幹両教授の主催のもと、「第1回生理学九州談話会」という名称で発足した。第二次大戦の戦後の混乱、乏しい物資、不十分な研究設備の中にも、戦後の復興という気運がようやく高まってきた頃のことである。当時、九州・山口地区には九州、熊本、長崎の大学医学部と山口、久留米、鹿児島島の医学専門学校があるだけであった。九大の問田教授が熊大の小玉教授、長大の田中助教授と相計り、この地区にも談話会をと提唱されたのに始まると聞いている。東京、また札幌地区につづいての地方談話会の発足であった。

その第1回の談話会は演題数29、出席者40人程度であったが、「この会は今後、毎年1回または2回、九州の各大学および研究所で、当番をまわりもちに行なうことにする」という記録が残っている。以来、今日まで35年間、表1に示したように大水害の昭和28年を除いて毎年1回の地方会が例外なく開催されてきている。

興味あることに、その第1回の会合は「生理学九州談話会」の名称で発足したものが、第2回の熊本大学医学部での小玉作治、緒方維弘両教授主催の会合からは「九州地方生理学会」に改称され、さらに第5回の久留米大学、末永一男教授主催の会合からは「西日本生理学会」と名称が改められているという事実である。これは、第3回の長崎大学での会合から、地方会よりもより雄大な構想の独立学会とし、県や市からの補助金も得たいという含みもあって西日本生理学会の看板をかかげたが、これには日本生理学会本部からクレームがついたという。しかし何時とはなくこの名称が定着し、第5回以後は公式名称として採用されている。また東京、近

畿地区その他の地方会の会合が、「談話会」という名称で続けられ、年2回またはそれ以上の会合が開かれているのに対し、西日本生理学会は、年1回の学会の性格で開催されてきたという特徴がある。

当初の申し合せでは、会合は年1～2回の開催となっているが、ことに中国地区を含めるとかなり地域的に広範で、必然年1回に限定されてきたといえるであろう。また事実、中国・四国との合同地方会が昭和37年、山口大学の川端五郎教授の主催で始まり、また昭和41年鳥取大学の山田守、及川俊彦教授、昭和47年に再び山口大学の丹生治夫、村上恵教授、また昭和54年に村上恵、長琢朗教授のそれぞれの御世話で行なわれていることは注目すべきであろう。このような意味で、交通の便利な関東、近畿地区の会合とはかなり異なる色彩とニュアンスをもつ地方会として発展してきたといえる。

### 1. 西日本生理学会の初期の発展

第1回は前記のように昭和24年「生理学九州談話会」として九大医学部生理学教室で開催され、11月26日(土)午後1～4時講演会(第1部)、午後4～7時連絡会議および懇親会、翌27日(日)は午前9～12時講演会(第2部)が行なわれ午前中で終わっている。報告演題は29題、抄録の記録がなく詳細は不明であるが、その参加演題には基礎生理学者だけでなく、膀胱の自動運動(百瀬俊郎、九大泌尿)、腹窓法による胃内圧曲線(田北周平、九大一外科)、心室反応(福田得志、九大薬理)など臨床や他教室からの報告があり、また三井産業医学研究所から6題もの労働医学また血液に関連した基礎的研究の報告が目立つ。当時、三井鉱山は最盛期であって、関連の労働医学もまた盛んであったことが窺える。生理学教室からは熊本大学から7題、久留

表1. 西日本生理学会の開催

会場欄の(合同)は中国・四国生理学会との合同開催を示す。

回	年月	当番校	開催地	当番教授	演題数	特講演別数	会場その他
1	S24. 11	九州大学	福岡市	瀬尾愛三郎, 問田直幹	29	0	九州大学医学部
2	25. 10	熊本大学	熊本市	小玉作治, 緒方維弘	24	0	熊本大学医学部
3	26. 11	長崎大学	長崎市	鈴木達二	32	0	長崎大学医学部
4	27. 9	三井産研	山野	石西進, 棚橋陽吉			三井産業医学研究所 (福岡県, 嘉穂郡)
5	29. 10	久留米大学	原鶴	末永一男	20	2	原鶴温泉(福岡県, 杷木町)
6	30. 10	鹿児島大学	鹿児島市	松本保久	36	0	鹿児島県医師会館(西鹿児島)
7	31. 11	山口医科大学	宇部市	井上章	32		山口医科大学
8	32. 11	九州大学	福岡市	問田直幹, 瀬尾愛三郎	24	0	九州大学医学部
9	33. 10	熊本大学	熊本市	佐藤昌康, 緒方維弘 田中育郎	26	0	熊本大学医学部 (熊本城内二の丸)
10	34. 11	長崎大学	長崎市	鈴木達二, 佐藤謙助	29	0	長崎大学医学部
11	35. 10	久留米大学	久留米市	末永一男	32	0	石橋文化センター
12	36. 10	九州歯科大学	小倉市	瀬尾愛三郎	23	1	九州歯科大学
13	37. 9	山口大学	山口市	川端五郎	29	0	山口県自治会館(合同)
14	38. 8	鹿児島大学	あびの	大村裕, 松本保久	24	0	国民宿舎「りんどう荘」
15	39. 9	九州大学	九重町	問田直幹, 後藤昌義	30	0	「九重西鉄ホテル」
16	41. 1	鳥取大学	米子市	山田守, 及川俊彦	54	0	米子市皆生「弓ヶ浜荘」(合同)
17	41. 10	熊本大学	熊本市	田中育郎, 佐藤昌康 緒方維弘	42	0	熊本大学医学部(本荘)
18	42. 8	長崎大学	雲仙	鈴木達二, 佐藤謙助	38	3	雲仙国民宿舎「青雲荘」
19	43. 10	鹿児島大学	指宿市	橋村三郎, 松本保久	40	0	指宿国民休暇村「きつなん荘」
20	44. 10	久留米大学	久留米市	額綱教三, 末永一男	38	0	久留米大学医学部(筑水会館)
21	45. 10	九州歯科大学	北九州市	野代平治	40	0	共済会館「ひびき荘」
22	46. 11	九州大学	九重市	栗山照	30	0	「九重高原ホテル」
23	47. 11	山口大学	宇部市	丹生治夫, 村上憲	53	0	歯科医師会館(合同)
24	48. 11	熊本大学	熊本市	佐々木隆, 佐藤昌康 田中育郎	33	0	熊本大学医学部(本荘)
25	49. 10	長崎大学	雲仙	鈴木達二, 佐藤謙助 山下一邦	20	0	雲仙国民宿舎「青雲荘」
26	50. 11	鹿児島大学	鹿児島市	松本保久, 橋村三郎	49	0	鹿児島大学医学部(宇宿町)
27	51. 11	久留米大学	久留米市	額綱教三, 西彰五郎	24	0	久留米大学医学部
28	52. 10	福岡大学	福岡市	富田忠雄, 河田溥	45	0	福岡大学医学部
29	53. 10	宮崎医科大学	清武市	石河延貞, 美原恒	44	0	宮崎医科大学 (全発表ポスター展示)
30	54. 10	山口大学	宇部市	村上憲, 長琢朗	74	0	山口大学医学部 (ポスターと口演発表)(合同)
31	55. 10	九州歯科大学	北九州市	中原敏	67	0	共済会館「ひびき荘」
32	56. 10	九州大学	福岡市	後藤昌義, 大村裕	60	0	九州大学医学部(同窓会館)
33	57. 10	熊本大学	熊本市	小川尚隆, 田中育郎 佐々木隆	65	0	熊本市産業文化会館
34	58. 10	長崎大学	長崎市	小坂光男, 相川忠臣 松田好弘	53	0	長崎商工会館
35	59. 10	佐賀医科大学	佐賀市	堀哲郎, 久場健司	56	0	佐賀医科大学

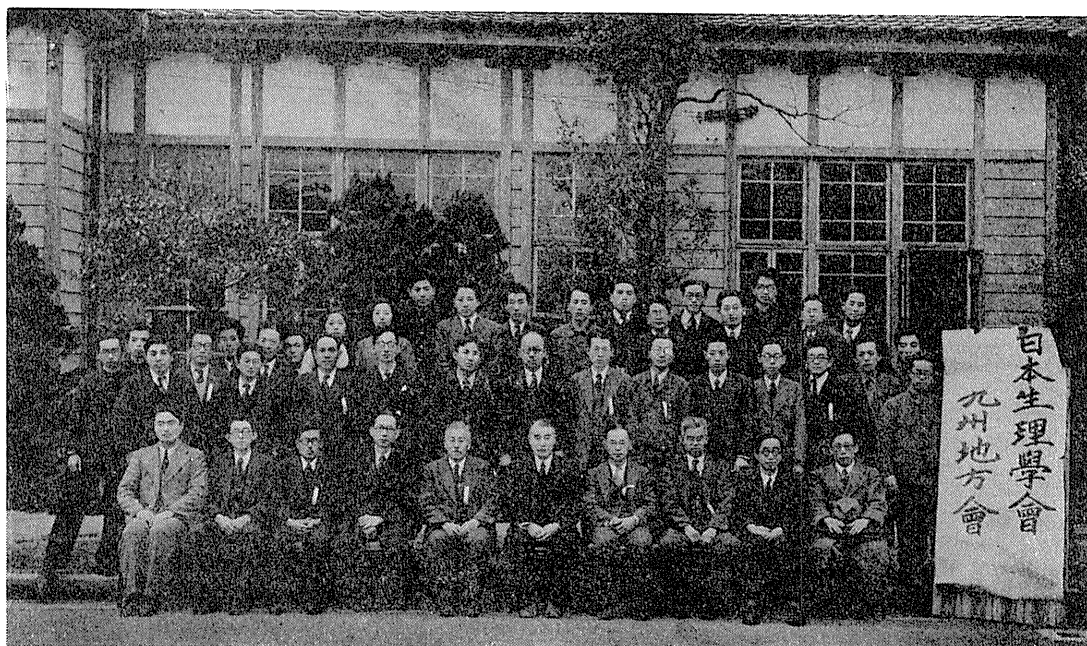


図1. 第1回生理学九州談話会. 生理学雑誌(第12巻, 370頁, 昭和25年)の学会記録では上記の名称になっているが, 写真では「日本生理学会九州地方会」の看板をかかげている. 最前列の左から, 田中育郎, 間田直幹, 松本保久, 小玉作治, 緒方大象, 板垣政参, 瀬尾愛三郎の各教授, 石西 進三井産研所長, 棚橋陽吉先生, 末永一男教授.

米医大から4題, 鹿児島医大から1題, 地元の九州大学から8題であった.

翌年の第2回の会合は熊本大学医学部で開催され, 公式名称が「九州地方生理学会」に変わったが, 演題数24, 熊大8題, 九大7題, 長崎, 鹿児島各2題, 三井産研4題, また山口医大からの初参加があった. 各大学, 研究所の発表にはそれぞれ特色があり, 学問的な共通の広場は必ずしも広くなかったが, 各大学の交流の中から将来を模索しようとする時代であったように思われる. 第3回は昭和26年長崎で, 原爆の傷跡も生々しい大学医学部で開催された. 演題は32題, 熊大10, 九大9, 三井産研4, 山口大4, 久大3, 鹿大2で, 地元の長崎は演題数が多いため発表を遠慮されている. しかし, 当時の各教室の状況からして, この初期の頃は若手研究者が, それこそオールスターキャストで発表できた良い時代であった.

第4回は, 三井産業医学研究所(福岡県嘉穂郡山野)で石西 進所長, 棚橋陽吉先生の主催

のもとで開催された. 炭鉱の町で宿泊施設がなく, 参加者全員が三井鉱山のクラブに御世話になり, 2日間寝食を共にした楽しい会合であった. 同研究所は当時としては最新鋭の実験器機を整備し, 研究費も豊かで大学関係者の羨望的であったが, 残念ながらその後の三井鉱山の閉山と運命を共にし, 学会抄録の記載もなくその詳細が明らかでない. 第5回は昭和28年に久留米大学, 末永一男教授の御世話で開催の予定であったが, 同年夏九州を襲った猛台風のため筑後川が氾濫, 大学の水没被害のため延期され, 翌29年に筑後川上流の原鶴温泉で開催されている. 総演題数20, 熊大, 鹿大, 山大各4, 長大3, 九大, 三井産研各2, 九歯大1で, はじめてシンポジウムとして間田直幹教授の「医学教育について」, 佐藤昌康教授の「英国土産話」という話題が取り上げられている.

昭和30年の第6回「西日本生理学会」は鹿児島大学, 松本保久教授の御世話で, 西鹿児島駅近くの鹿児島県医師会館で開催された. 県立か

ら国立大学への移管発足の年で、医学部はまだ鴨池にあり木造であった。しかし学会演題は36題に達し、九大、熊大医学部から各6題、また熊本大学体質医学研究所、長崎大から各5題、鹿大、久大各4題、また山口大からも3題の報告があった。ついで第7回の学会は山口大学の井上章教授の主催で同附属病院中央講堂で開かれたが、その前年、同病院が火災にあい困難を押しでの開催であった。演題数32、参加者は53名であった。この第7回で当初の当番校を一巡したことになり、第8回は九州大学医学部で再び開催されている。

## 2. 西日本生理学会の伝統と特徴

このように西日本生理学会の演題は発足当時から昭和39年の第15回まで最少20、最多36題程度であり、口演は第1日の午後始まり、第2日目は午前中に終り、初日の夕食は多くは全会員参加の宴会であった。参加者も40~60名前後、楽しい一夜をともに過ごすということが多く、地域生理学者の communication の場、また懇親的な色彩が濃い会合であった。それは九州人の気質でもあり、地方的な地方意識もあろうが、しかし和気藹々たるものがあり、この伝統はなお今日まで引きつがれている。

第4回の三井産業医学研究所で全員のクラブ宿泊の会合、第5回筑後川原鶴温泉でのドテラ姿の学会についてはすでに述べたが、それ以後もこのような企画は相次ぎ、第14回鹿児島大学、大村裕、松本保久教授御世話の霧島えびの高原「りんどう荘」での会合、第15回九州大学、問田直幹、後藤昌義教授主催の九重高原「九重西鉄ホテル」での集会、第18回長崎大学、鈴木達二、佐藤謙助教授、また第25回同山下一邦教授がともに主催された雲仙の国民宿舎「青雲荘」での2回の学会、また第19回鹿児島大学、橋村三郎、松本保久教授御世話の指宿温泉国民休暇村「さつなん荘」、また第22回九州大学、栗山熙教授御世話の「九重高原ホテル」での集会等々である。

このような resort place での会合では演題

数の制限はやむを得なかったが、通常の学会また総会では経験できない研究者相互の膚のふれあいがあり、談論風発、夜を徹しての楽しい談合があった。もちろん学会初日の夜は飲んでばかりいたわけではない。昭和29年第5回原鶴温泉での会のように、1) 医学教育について(問田直幹)、2) 英国土産話(佐藤昌康)など留学から帰国早々の教授から世界の教育、研究動向についての紹介、討論など Evening Session もあり、またその後は筑後川での鵜飼に興じ夜のふけるのも忘れる学会もあった。また昭和36年九州歯科大学での第12回の西日本生理学会では NIH の田崎一二先生の「興奮過程の新しい考え方」という特別講演が行なわれており、昭和42年第18回、雲仙での学会では、1) 西日本生理学会所感(小玉作治)、2) 現象の成立と同時制(瀬尾愛三郎)、3) 研究生活から得たいろいろなこと(棚橋陽吉)の特別講演があり、生理学に一生を捧げられた先生方の貴重なお話しもあったのである。

また西日本生理学会の特徴として、中国・四国生理学会との共同開催がある。通常の年でも山口大学、鳥取大学、島根大学までは西日本地方会の御案内を申し上げ、事実、山口、島根大学からは毎年、また鳥取大学からも参加者があり、口演発表がなされている。また特筆すべきは、山口また鳥取大学が中四国地方会の主催校になられるときは、西日本生理学会も一緒に開催していただいたということである。その第1回の合同地方会(第13回西日本地方会)は昭和37年、山口大学川端五郎教授の御世話で、山口市県自治会館で行なわれ、演題は29題に制限されたが、79名が参加し、大阪大学の久保教授外1名、また東京医科歯科大学伊藤教授その他1名の参加があった。その第2回の合同地方会(第16回西日本生理学会)は昭和41年1月鳥取大学山田守、及川俊彦教授の御世話で、米子市で開かれたが、これは参加者に大山のスキーを楽しんでいただくため、わざわざ翌年正月に延期されての開催であった。会場は皆生温泉「弓ヶ浜荘」、演題54、参加者は約180名であり、

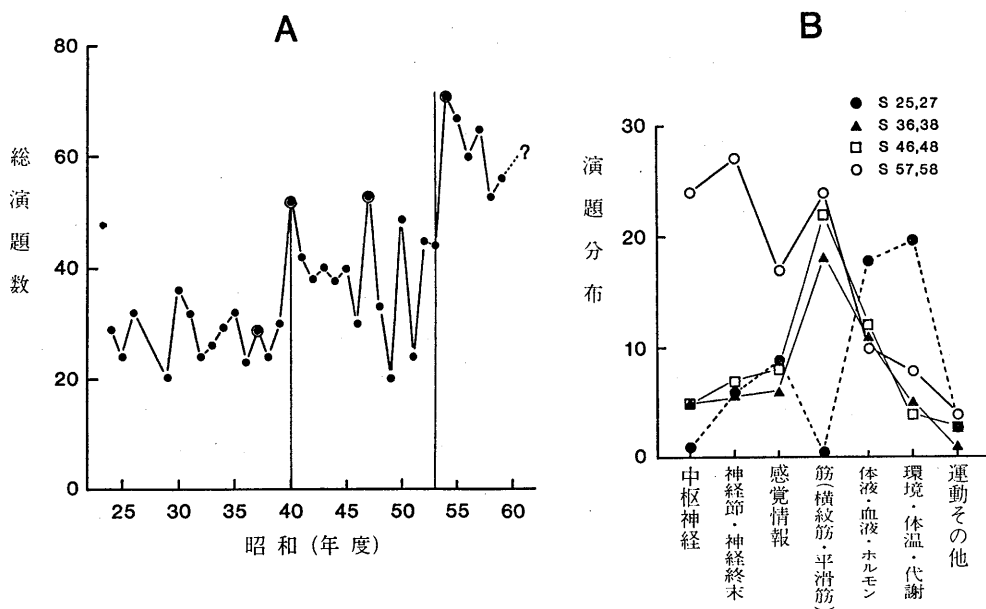


図2. 西日本生理学会の演題数とその内容の変遷. A) 演題数の増加. 二重丸は中国・四国地方会との合同生理学会. 縦線は第一次, 第二次の拡充期を示す. B) 演題内容の変化. ほぼ10年毎, 各2年間の演題内容の分布を示す(上記の合同生理学会のものは除いてある).

大山のスキーはもちろん皆生温泉を心ゆくまで堪能できた思い出深い学会であった. このため昭和41年度は, 第16, 17回と2度西日本地方会が開かれている. 第3回の合同地方会(第23回西日本生理学会)は, 昭和47年に再び山口大学丹生治夫, 村上 恵両教授の主催で宇部市の歯科医師会館で開催されたが演題53, 参加者は170名であった. そして第4回の合同会議(第30回西日本地方会), 昭和54年もまた山口大学村上 恵, 長 琢朗両教授の主催で開かれ, ポスター展示と口演を併用された新企画の学会であったが, 参加者は183名に達した. このように西日本生理学会は, 常時, 西中国地区の大学からの参加者があるだけでなく, また数年おきに, 西日本と中四国生理学会地方会の合同学会が開催され, 文字通り「西日本」生理学会を実質的にも実現しているといえよう. それにしても, 山口大学には再三合同会議を御世話いただき, その御苦勞は大変であったと推察される.

### 3. 地方会演題内容の変遷

西日本地区の特徴ある演題とその内容の変遷

もみのがせない. 当初, 西日本地区の大学, 研究所は数ヶ所に限られており, 必然その演題は限られた教授また研究所の色彩を反映していた. 昭和30年以前では熊本大学を中心とする小玉教授門下の組織呼吸, 血液, 緒方教授門下の体温調節, 発汗, 九州大学瀬尾教授一派の感覚生理, 血液ガス, 問田教授指導の電気生理学, 視覚の電気現象, 久留米大学末永教授門下の神経放電シナプス, 長崎大学鈴木教授一派の内分泌, ホルモン, 三井産研の石西所長, 棚橋先生指導の労働, 血液生理学などであり, どちらかといえば植物機能生理学に関連した演題が優勢であった(図2参照).

昭和30年代またその前後に長崎, 久留米, 鹿児島大学の生理が複数講座制となり, まず昭和29年長崎大学に佐藤謙助教授が着任, 同31年, 久留米大学に瀬尾教授, 鹿児島大学に後藤教授が任命され, 昭和33年には熊本大学小玉教授の後任に田中教授が着任されて, これら新任教授関連の演題が増加した. また昭和30年代は実験機器ことにエレクトロニクス機器の急成長の時代であり, これらを反映して演題も血液, ホル

モン、体温、心臓、循環、消化、感覚、脳波、神経、筋、細胞生理学など多岐にわたるようになったが、最も顕著な傾向は神経節、神経、筋(骨格筋、心筋、平滑筋)など細胞レベルの電気生理学の台頭であった。これは演題内容分布にもみられ、昭和40年代まで続いていることがわかる(図2B)。

昭和40年後半から50年代にかけてはさらに教授の新旧交代があり、これに加えて、周知の新設大学の増設が行なわれ、演題の内容も大きく様変わりした。昭和46年熊本大学緒方教授の後任に佐々木教授、同47年山口大学川端教授の後任に村上教授、昭和49年には九州大学間田教授のあとに大村教授、久留米大学では末永教授の後任に西教授が着任、同52年には熊本大学佐藤昌康教授の後任に小川教授、山口大学では丹生教授のあとに長教授が誕生、電気生理学ことに中枢神経(中枢性体温調節)の演題が増加した。また後記のように、福岡大学医学部、宮崎医科大学をはじめとする新設の医科大学、大学医学部が次々と誕生し、その演題数の50年代における急増とともに、その内容の専門分化が著しく顕著になった。それは産業医科大学の特殊環境の生理学から、中枢神経、視床下部、神経節、感覚、各種筋肉の興奮収縮連関から生物物理、神経分泌、ホルモンから血液、分子生理学まで広範囲に分布した。ただその中でも中枢神経、視床下部の演題の急増が目立ち、本年度、佐賀医科大学での第35回西日本生理学会ではそれが総演題のほぼ半ばをしめ、神経、筋の電気生理学を含めると2/3に達するという特徴を示すようになった。これは体温調節関係の学者が中枢調節を指向されたことにもよるが、全国的な著しい動向であるともいえる。

#### 4. 新設大学、講座増設にともなう変容

前記のように西日本生理学会の伝統は、この地域の特徴として今日まで引き継がれて来ているが、生理学の進歩とその細分化、新設大学、また医科大学、生理学講座の増設など、時代の変遷、推移にともない、生理学会地方会のあり

方も必然的にその変容を迫られることになった。それはことに九州地区でより顕著であったといえよう。

その第1期は昭和20年代後半から30年代にかけての医学専門学校の医科大学また大学医学部への昇格、これにともなう生理学講座の複数化増設であった。また大学院の併設などこれらにより生理学研究者は急増した。しかし、この第1期の増設期はむしろ地方生理学会の充実と発展をもたらし、それほどの質的变化をもたらすに至らなかった。しかしそれは図2Aの総演題の年次変化にみられるように、昭和40年代の演題数の増加として反映されている。

しかし、その第2期、昭和40年代後半から50年代にかけての新設大学、医科大学、歯科大学また歯学部の新増設は余りにも急激であり、地方会のあり方にも物理的また質的な影響を与えざるを得なかった。ことに九州地区では大学医学部、医科大学だけでも、九大、熊大、長大、久大、鹿大の5校から、一挙に福岡大学医学部、産業医科大学、宮崎、佐賀、大分の各医科大学、また琉球大学医学部の6校を加え、2倍以上の規模となった。これに大学歯学部、歯科大学、医療短大などの生理学関連講座を加えると実質3倍近い増加であった。事実、九州地区の生理学会評議員は昭和45年に40名足らずであったが、昭和59年の春には121名となり3倍以上に増加している。またその評議員数は全国評議員数約1,000名の12%をしめ、全国生理学会会員の約3,000名の10%に満たない地方会員300名弱に比較して、評議員数が相対的に多い事実は、上記の新設の大学、講座に新進気鋭の学者が多数招聘されたことにもよるであろう。またこれらの新設大学にはこの両3年大学院も設置され、なお今後の発展が期待されている。

このような地域の研究者、学者の激増と、学問の進歩、細分化、国際化の進展は、必然的に西日本生理学会のあり方についても、有形、無形の基本的な影響をおよぼした。

その1)は地方会演題数の激増である(図2A)。従来も1泊2日の学会スケジュールのため

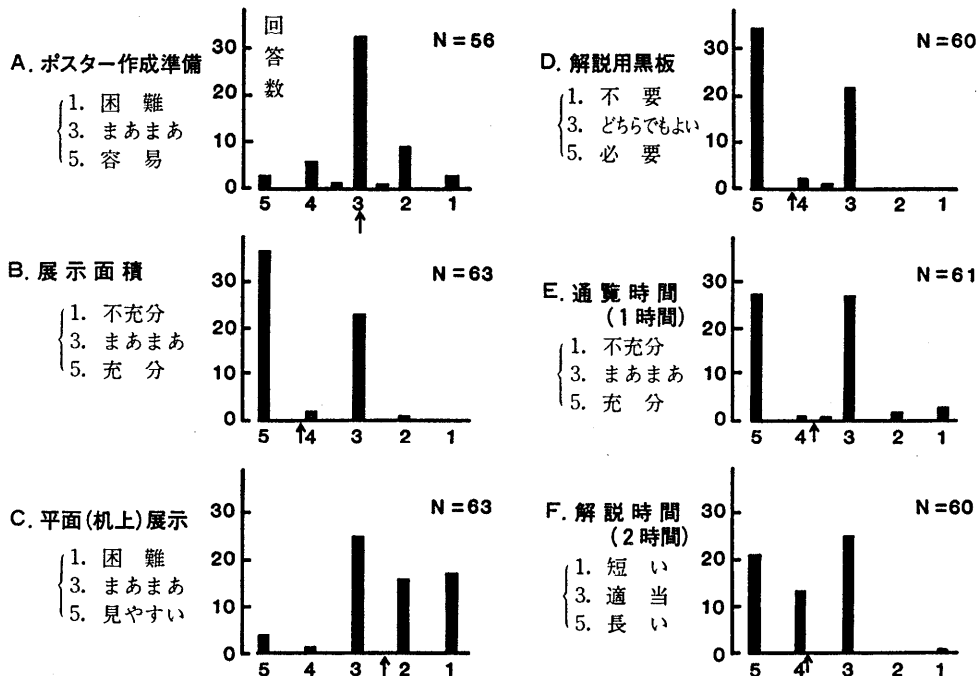


図3. ポスターセッションへのアンケート。昭和53年の第29回西日本生理学会（石河延貞，美原 恒教授主催，宮崎医科大学）は全演題ポスター展示というユニークの学会であり，演題数44，半日ごと22題を実習室台上に展示し，解説口演が行なわれた。その結果についての両教授によるアンケート集計を示す。なお今後の学会発表のあり方についての質問に対し，

- 1) 全演題を展示口演とする…………… 8
  - 2) スライド発表形式を併用する………42
  - 3) 従来のスライド発表形式のみ………11
- の賛成があった。

多少の演題制限はあったが，それほどではなかった。しかし昭和40年代ことに50年代になると，各講座2題の演題制限下にも集まる演題数は50題を超え，時には70題にも達し，丸2日，朝から夕刻までの学会にならざるを得なかった。このため遠隔の研究者は場合によって2泊また3泊を迫られるという状況になった。このジレンマ克服のため昭和53年，宮崎医科大学での石河延貞，美原 恒教授主催の地方会では全演題ポスター展示という斬新な企画で行なわれ，さらに美原教授はポスター展示の有り方についてのアンケートの集計を公表された(図3)。次の昭和54年，第29回，山口大学医学部の村上 憲，長 琢朗教授御世話の学会でも，口演発表(40)とポスター展示(34)を併用され，71題もの発表を1日半で処理され大きな成果を挙げ

たが，主催者側の準備と手間はそれだけに大変であったと推測される。

その2)は上記の問題とも関連して学会開催場所の問題である。100名以内の会であればとにかく200名近くとなれば観光地のホテルや旅館では収容できない。かりに収容できても，学会場に講堂のような便利設備がなく，ましてポスター展示するような場所の余裕がない。その結果は都市また大学での学会開催に限定されてきたということである。

その3)は懇親会また研究者相互の communicationの問題である。研究者の数が激増し，専門分化が進めば，すべての方々ととの膚の触れ合いは望むべきもないであろう。しかし最近でも主催者の大変な御骨折りで，懇親会は毎年盛大に行なわれ，ことに第33回(昭和57年)の熊

本文化会館での田中育郎, 小川 尚, 佐々木隆教授御世話の会, また第34回(昭和58年)長崎商工会館での小坂光男, 相川忠臣, 松田好弘教授主催の会では特別のショウやその他の企画もあり, 盛大豪華であったが, それだけにその御世話, 御負担は大変であったと思われる。

その4)は当番校持ち廻りの問題である。大学や医科大学, 歯学部の増設により, 学会担当校の数も10数校に増加し, 従来は数年に1回は御世話できたのに, ある教授にとっては在職中一度御世話できればよい程度になったという事実である。さしあたり, 新設大学も立派に整備されたので, 宮崎医科大学を振り出しに, 昭和59年からは佐賀, 大分医科大学, 産業医科大学と大学の御紹介をかねて順次当番を受け持って戴くことになっており, いずれ琉球大学にも御世話いただくことになるであろう。

### おわりに

このような新設の医科, 歯科関係大学の増加に伴う研究者の増大, 生理学の専門分化, 国際化は, 各地域での地方会のあり方, また将来への問題を提起することになった。大阪大学の中山昭雄教授は, 昭和59年春の生理学学会常任幹事会において, 「地方談話会についての提案」という議題を提出され, 一地方会の会合ではもはや学会としての国際的レベルの討議は期待できない。地方での生理学学会また談話会のあり方を全国的視野で再検討してはどうかという問題提起をされた。

その提案の常任幹事会での賛同にもとづいて, 九州地区でも「西日本生理学学会の将来のあり方」について会員の意見のアンケート調査を実施した。このために本年の地方会の当番校, 佐賀医科大学の堀 哲郎, 久場健司教授には大変な御骨折りを戴いたが, そのアンケートの内容は,

- 1) 西日本生理学学会の存続の賛否。
- 2) 存続するとすれば, その改善案。
- 3) 発展的に解消するとすれば, その新しいあり方。
- 4) その改善また解消の全国的な意見の調整と合意方法。

などであり, 全会員の意見を求めた。これらに対し, 133名の会員の方からの回答が得られたが, 本年度のこの調査では西日本生理学学会の存続支持者が72.9%となり, 発展的解消の支持者25.6%を大幅に超える結果が得られた。また改善法としては, 1) ポスター展示導入による演題消化, 学会時間の短縮, 2) 特別口演, シンポジウム, ワークショップの導入, 3) 抄録の英文発表による国際化, などの要望があった。

他方, 地方会の発展的解消を支持する意見では, 1) 米国の fall meeting の特徴を取り入れた全国大会にしてはとの意見もあったが, 2) 学会や研究会が多く, 旅費の問題もあり, 総会と地方会の両方には参加できない, 3) 東京談話会のように内容に重きを置いた自由参加にしてはなどの提言にとどまり, あまり積極的な意見はみられなかった。

これらの結果についての詳細は, 他地区での地方会の意見を含めて, いずれ全国的に総合され生理学学会として討議されるであろうが, 西日本生理学学会としてはその伝統と歴史もあり, これらを踏まえて生理学学会の将来の真の発展のために御配慮, 尽力されることを念願してやまない次第である。

この西日本生理学学会の小史の執筆については, 各大学の名誉教授ことに問田直幹, 鈴木達二, 田中育郎先生, また現役教授の及川俊彦, 村上 憲, 額綱教三, 橋村三郎, 相川忠臣, 美原 恒教授など多くの方々からの有難い御教示を戴いた。心から感謝申し上げる次第である。

## 6. 生理学中部談話会30年史

大 原 孝 吉

(名古屋市立大学医学部第二生理)

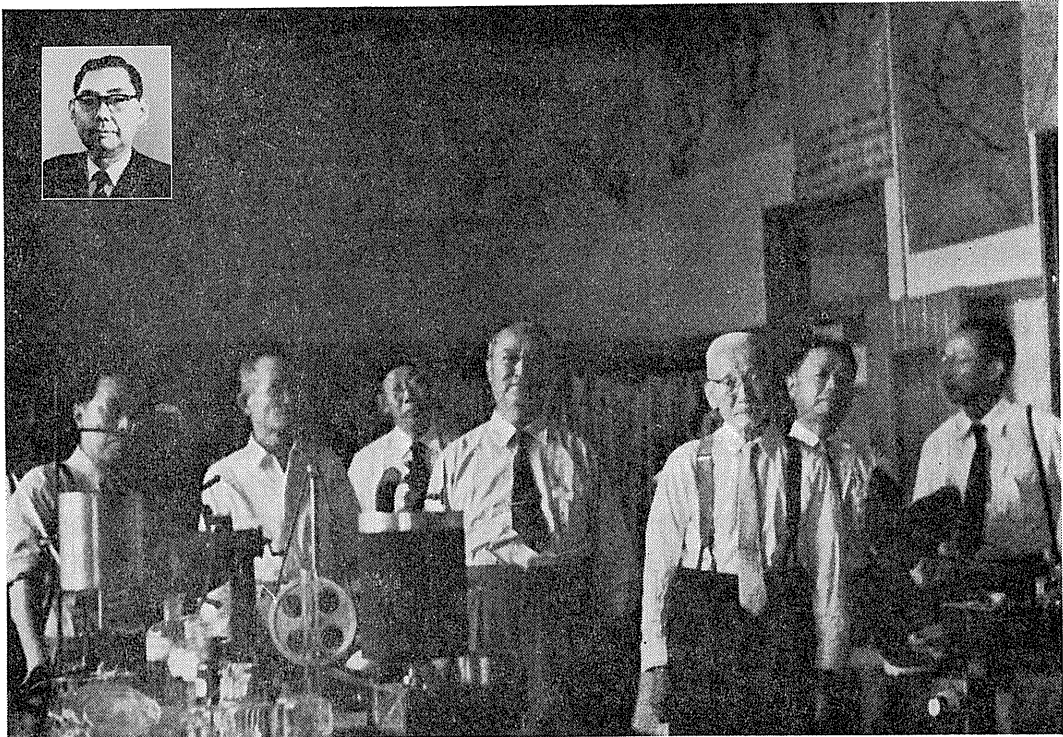
生理学中部談話会は、昭和30年8月28日、山国とはいえなお残暑のきびしい松本市旭町の、旧陸軍松本連隊の面影が随所に見られた信州大学医学部で呱呱の声を挙げた。生理学会そのもの、発足と歴史については日生誌の記事“日本生理学雑誌20巻をかえり見て”(昭33, Vol 12, No. 12, 第20巻完結記念号)に詳しいが、当時、生理学会所属の研究機関の研究量の急速な増加に答え、年1回開催される生理学会総会を補う意味で各地区毎に談話会型式の地方会が相ついで発足し、それによって研究の発表、連絡の機会が供与される傾向が強かった。

中部談話会の発足当時には、すでに日本生理学会北海道地方会(第7回)、生理学東京談話会(第103回)、生理学近畿談話会(第6回)、生理学中国四国地方会(第6回)、西日本生理学会地方会(第5回)などが開催されており、各地区の生理学研究の活性化の足場となっていた。これに対し、中部地区にはそのような地方会がなく、各研究機関の研究者は、はるばる東京談話会あるいは近畿談話会に出席して発表の機会を持つことができたにすぎなかった。この実状を見られた当時の信州大学生理学教授の和合卯太郎先生は、中部地区にも先発の他地区の地方会に類する地方会を設立すべき段階に達したと考えられ、生理学中部地方会の設立を提言、実現にこぎつけられたものである。とは言え、中部地区に所属する生理学研究機関(生理学講座、研究所)の数はきわめて少ないなどの事情もあって、第1回談話会は東京談話会(第104回)と合同の生理学中部談話会(仮称)として開催された。この発会での演題数は28題あり、地方会としては決して少ない方ではなかったが、その大多数は東京談話会に属する研究機関からのもので、中部地区としては僅かに4生理学講座から7題の出題(出席者116名中、中部談話会関

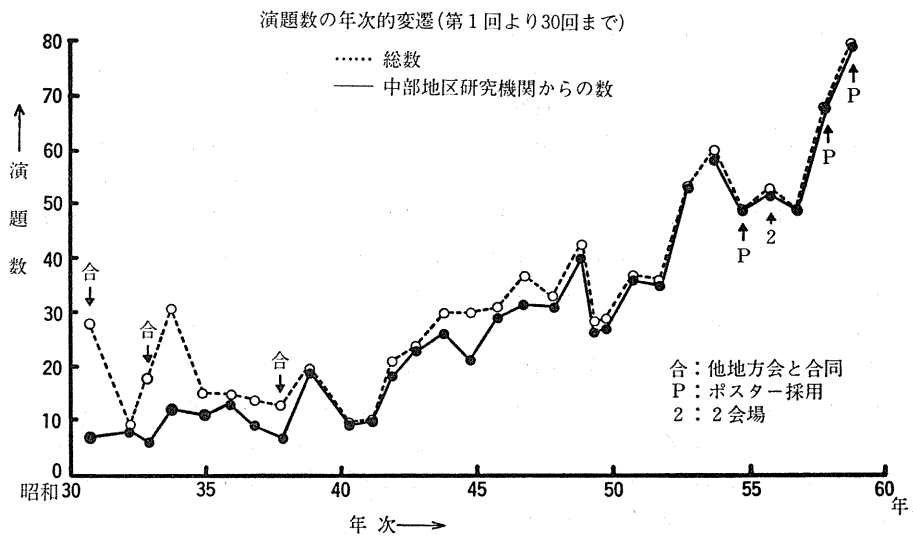
係者は世話校である信大生理学教室所属の10名を含めて38名)という菲弱なものであった。このことは、第30回中部談話会(昭和58年)において所属する研究機関が医・歯関係のみでも17大学、5研究所、発表演題数が80題(出席者159名)と比べて隔世の感がある。このように、中部談話会の基盤が他地区のものより弱く、したがってその設立が大幅に遅れたにもかかわらず、敢て独立した地方会として組織化され発足されたのは、会員の要望によるのは勿論であるが、一面では中部地区における生理学研究の将来の展望に立っての上であり、今にして思えば創設に努力された先生方の考えはまことに当を得たものであったと思われる。以上のような事情での発足であるので、第1回の当番幹事としての和合先生の気の遣いようには並々ならぬものがあつた。些細な一事かも知れないが、たとえば当日信州名物の「そば」の接待をされることになったが、松本市内の名の通つたそば屋を数店試食比較した上で慎重に決められたと聞いている。

以上の経緯で中部談話会がようやく誕生したが、この第1回の談話会には生理学会の最長老であられた永井 潜先生、久野 寧先生をはじめとして、中部地区、東京関東地区から非常に多数の大学生理学講座教授の先生方の来会があり、また一部近畿地区からの参加もあつた(写真)。このように中部談話会に寄せられた期待の大きさとその後の発展を考えると、まことに意義深い発足であつた。

爾来、昭和30年～58年間に30回におよぶ中部談話会が開催された。中部地区に属する大学、生理学関係講座、研究所などは逐次増加の一途をたどり、それにつれて談話会の演題発表数が加速度的に増加し、報告される研究領域も多彩なものとなつた。この間の足跡を年譜と図で



和合卯太郎  
 若林 勲 坂本嶋嶺 戸塚武彦 久野 寧 永井 潜 林 麟 福田篤郎  
 昭和30年8月28日 信州大学生理学実習室にて (敬称略)



## 生理学中部談話会開催年譜

回	開催年月日	当 番 研 究 機 関 (当 番 幹 事)	会 場	演 題 数	備 考
1	昭和 30. 8. 28	信大, 医, 生理学教室 (和合卯太郎)	信大, 医学部, 生理学教室	28	第104回生理学東京 談話会と共催
2	32. 1. 27	名大, 医, 生理学教室 (伊藤 龍)	名大, 医学部講義室	9	
3	32. 11. 30	三重県大, 医, 生理学教室 (勝田 稜)	津市, 三重会館	18	第17回近畿生理学談 話会と共催
4	33. 8. 21~22	岐阜医大, 生理学教室 (竹中 繁雄)	岐阜医大, 生理学教室	31	自働能研究シンポジ ウムと合同
5	34. 12. 5	名大, 医, 生理学教室 (高木健太郎)	名大, 医学部講義室	15	
6	35. 11. 27	金大, 医, 生理学教室 (斎藤幸一郎, 岩間 吉也)	金大, 医学部生理学教室	15	
7	36. 10. 1	名市大, 医, 生理学教室 (新田 初雄, 大原 孝吉)	名市大, 医学部講義室	14	特別講演5題を含む
8	37. 10. 20	信大, 医, 生理学教室 (和合卯太郎, 宮川 清)	信大, 医学部病理学講義室	13	特別講演3題を含む 151回東京談話会と 共催
9	38. 10. 19	名大, 医, 生理学教室 (伊藤 龍)	名大, 医学部講義室	20	
10	40. 2. 13	三重県大, 医, 生理学教室 (勝田 稜, 村上 長雄)	三重県大, 医学部生理学教室	9	
11	41. 1. 22	岐阜大, 医, 生理学教室 (竹中 繁雄, 田村 喜弘)	岐阜県蚕糸会館	14	生物物理シンポジウ ム4題を含む
12	41. 10. 22	名大, 医, 生理学教室 (高木健太郎)	名大, 医学部講義室	21	
13	42. 9. 25~26	金大, 医, 生理学教室 (斎藤幸一郎, 大村 裕)	山代温泉, 山代荘	24	
14	43. 11. 9	名大, 環境医学研, 第5部門 (御手洗玄洋)	名大, 古川図書館	30	
15	44. 9. 14	三重県大, 医, 生理学教室 (勝田 稜, 村上 長雄)	津市, 農協ビル	30	第40回近畿生理学談 話会と合同
16	45. 10. 24	名市大, 医, 生理学教室 (新田 初雄, 大原 孝吉)	名市大, 医, 基礎館講義室	31	
17	46. 10. 15~16	信大, 医, 生理学教室 (東 健彦, 宮川 清)	松本市, 県立看護教育研修セ ンター	37	アンケート, 中部談 話会の開催方法など について
18	47. 11. 18~19	名大, 医, 生理学教室 (高木健太郎)	名大, 医学部講義室	33	
19	48. 12. 8~9	岐大, 医, 生理学教室 (搞 功, 曾我美 勝) (渡辺 悟)	岐大, 医学部講堂	42	
20	49. 3. 30~31	愛知学院大, 歯, 生理学教室 (伊藤 文雄)	愛知学院大, 歯学部	28	
21	49. 9. 29~30	金大, 医, 生理学教室 (大村 裕)	山中保養所, ほくりく荘	29	
22	50. 9. 29~30	京大, 霊長類研, 神経生理研究 部門 (久保田 競)	川島町, 内藤記念くすり資料 館	37	
23	51. 8. 27~28	名大, 環境医学研, 第5部門 (御手洗玄洋)	名古屋郵便貯金会館	36	
24	52. 9. 30 ~10. 1	愛知県心身障害コロニー発達障 害研究所, 生理学部門 (清野 茂博)	愛知県労働者研修センター (定光寺)	53	
25	53. 9. 21~22	金沢医大, 生理学教室, 口腔生 理学教室 (大山 浩, 今永 一成) (足立 明)	朝日生命ビル	60	アンケート 中部談話会のあり方 について
26	54. 10. 12~13	愛知医大, 生理学教室 (楢江 勇, 小川 徳雄)	愛知医大	49	ポスターセッション の取り入れを試みる
27	55. 10. 17~18	富山医科薬科大, 生理学教室 (川崎 匡, 小野 武年)	立山国際ホテル	53	会場を2会場とする

回	開催年月日	当 番 研 究 機 関 (当 番 幹 事)	会 場	演題 数	備 考
28	56. 10. 16~17	名古屋保健衛生大, 生理学教室 及び総合医科学研究所発達生理 部門, 心臓血管部門 (永田 豊, 佐々木 勳) (松谷天星丸, 渡部 良夫)	名古屋保健衛生大, 医学部	49	
29	57. 10. 22~23	浜松医大, 生理学教室 (森田 之大, 高田 明和)	浜松医大, 教育棟	65	口演: 1研究単位当 り1題 ポスター制限なし
30	58. 10. 24~25	名市大, 医, 生理学教室 (堀田 健, 大原 孝吉)	愛知県中小企業センター	80	ポスター取入れ
31	59. 10. 18~19	山梨医大, 生理学教室 (入来 正躬, 竹内 亨)	湯村昇仙閣ホテル	58 F: 33 P: 25	ポスター取入れ, 中 部談話会のあり方 についてアンケート

示す(個々の研究機関あるいは生理学講座すべてについて何年度から中部談話会に参加したかは, 談話会への演題申込み年次と異なるところがあつて, これを正確にたどることは困難に思えた。この点, 記載に不行届のあることを関係機関の方にお詫びします)。

生理学中部談話会が地方会型式の学会として発展すると歩調を合わせて, この地区の会員数が増し, 発表される演題数の増加, 研究対象とその内容がますます多彩化するに至つた。それにつれて, 談話会の学会としてのまとまり, その意義, 在り方などおそらく他の地方会にも共通すると思われる種々の問題が生起し, しばしばそれが談話会の場で検討されるようになった。1つは演題数の増加に伴う開催日数と会場数の問題であり, 他の1つは(より重要なことと思われるが)生理科学のごとき非常に広い研究領域にまたがっている学術集会を地方会という形でどう受けとめるかということであつた。これらの問題について数回にわたって主としてアンケート方式によって会員の意向が尋ねられた。第17回談話会では, 構成研究機関の所在地分布の観点から1回おきに名古屋地区の機関が当番をすること, 第19回談話会では年次開催数の検討(1回か2回か), 第25回談話会では研究発表の効果を高めるためのポスターセッションを設けることの是非などが論ぜられた。また, 第7回, 第8回ではそれぞれ数題の特別講演, 第11回ではシンポジウムの取り入れなどの試みがなされている。なお, 30回の節目を迎えた次回第31回談話会でもひき続いてこれらの問題が

検討される予定と聞いている。<sup>注)</sup>

地区談話会の意義は, 年1回の生理学会総会だけでは量的に処理し得ない研究の発表, およびその速報的な意義に加え, 研究者個人の比較的狭い研究対象に関してだけでなく, いわば耳学問的であるにしても他の研究分野についての知識を得, さらに専攻領域外の研究者と接触する機会(山代温泉を会場とした第13回談話会では, 夜浴衣がけでのディスカッションのセッションが設けられたが, このような学会としては印象に残ることであつた)を持つことによつて, 自己の専攻分野の遠心的考察に資することに意義があると考え人は少なくないであろう。中部談話会もこの立場から原則的に一会場開催の立場を貫いて来た(例外的に第27回では二会場制を取り入れた)が, その功罪は今後の論議の対象とならう。地区談話会が単に生理学会総会の補完的役割を果すという以上にそれ独自の別趣の意味を持つという点では中部談話会は評価に値する業績を挙げたといつてよいのではなからうか。

以上, 中部談話会の発足から現在に至る過程を概観したが, その中でも談話会結成の時期が他地区より特に遅れたことが注目される。このことは, 中部地方と呼ばれる地域の地誌学的, 文化史的的特色と必ずしも無縁ではなかつたかも知れない。中部は地勢的, 文化的に太平洋側と日本海側, 中央山脈を境として関東に向う面と関西に連なる面とを包含し, その故に全体としての一体性, 集中性がなく, 「中部」ではあるが「中央」にはなり難いこと, 東西の谷間であ

ることが今だに指摘されている。しかし、生理学中部談話会はその足跡、現況から見るかぎりそのような餘事の条件の影響を受けることなく、独自性を持つ学術集団として着実にそれ自身を形成し、成熟の時期に至ったものと考えられる。しかし、すべての生き物、社会の場合と同じく、成熟期には成長期にはかえり見られない問題を抱えるものであり、その点生理学中部談話会も他地区の地方会と共通する一般的問題の検討が必要な時期に達したのではないかと考える。

#### 追記：

生理学中部談話会の30年史を書くようにとの日本生理誌編集委員よりの申付けを頂いたが、その内容は単なる過去の回想ではなく将来への展望も含めてというご注文であった。このことは稿を進める上で大きな負担であり、果してその意向に少しでも副い得るかどうか全く自信のないことであった。中部談話会の経過、現況の概要は極めて大まかに本論中で述べたが、総じて現況は過去の足跡を正しく眺めることによって理解され、その現況の裡にこそ将来の展望の萌芽が含まれていることは学術研究団体の歴史発展の上でも当てはまることであろう。中部談話会が今後どのように具体的に変貌して行くかは正直のところ私の筆のおよびがたいところで

ある。ただ、学会がその本来の趣意を見失うことなく運行されて行く限り「天行は健なり」の言の如く、形のいかんにかかわらず生生発展するであろうことを願って責の一半を果したいと思う。

稿を終えるに当たって数々の資料を提供して頂き、また貴重なご助言を賜った諸先生方、また格別のご配慮を頂いた若林 勲先生および信大大橋助教授に厚くお礼申し上げますとともに、資料の見落とし、脱落などの誤りによる失礼にはお許し、ご叱正をお願いする次第です。

#### 注)

第31回生理学中部談話会の開催を機に、日本生理学会の将来に関連する一つとして会員各位に「中部談話会のあり方」を再検討していただくことになりました。討議の資料としてすでにアンケートによる意見のとりまとめを行いました。回答52の内44 (85%) が中部談話会の存続に賛成でありました。賛成理由は、大原教授の述べられているような、専門外分野の研究の動向を知りうること、若手研究者の発表の機会として有意義なことと、さらに懇親会的役割も大きいことなどでありました。ただ、存続を賛成される方でも多くは何らかの改善が必要とのお考えでありました。

(地区編集委員 永坂鉄夫)

## 7. 東北生理学談話会の歩み

鈴木 泰 三

(東北大学名誉教授)

東北地方での生理学会地方会のスタートは他の地区に比べて遅く、昭和43年である。スタートするまでに有志の間で色々と話し合いが行われたが、仲々意見の一致しなかった理由としてつぎのことがあげられる。第1に東北地区の各大学の生理学教室の教授はその出身学校の出身教室との結びつきが強く、その出身教室の研究会で研究の交流が行われてきた歴史があり、それで十分であるから改めて地方会は必要でないという意見。第2に、もともと地方会が研究交流の場としてどれだけ意味があるのか、研究発表には日本生理学会総会もあるし、また、雑誌に発表すればよいのではないか、という地方会無視の意見。第3に、東京もそう遠くないので、もし談話会で発表したければ東京談話会でも十分ではないか、とする意見、などがあった。日本生理学会はもともと保守的な傾向の強い学会でもあり、それに東北地方という風土の影響もあって、仲々新しい試みにはふみ切れなかったといえる。

しかし、東北地区にも新設の医学部、歯学部、歯科大学が増加してきたために、同じ生理学を志向する人達が集って自由に話し合う場をもとうということになり、昭和43年に初めて仙台で第1回の東北地方会がもたれた。残念なことに、そのときの記録は見当らない。

第2回は松島で行われた。この頃は大学紛争の最も激しかった頃であり、地方会でも夜遅くまでであり方論議だけが続き、研究の交流という雰囲気からは程遠く、白けきった地方会に終わってしまった。そのためか、もう地方会は止めた方がよいのではないか、という声もきかれた。しかし、このような空気もいつかは消え去るだろうということで、とにかく地方会を続けてみよう、という意見によって第3回が予定され

た、という状況であった。

昭和45年になると、大学紛争も下火になり、落ちついて地方会をやる気風が出てきて、第3回の地方会が盛岡で行われた。第3回以降は地方会の記録も残っている。それによると、東北地方会という名称は用いられておらず、第3回までは東北地区生理学集談会であり、第4回以降は現在に至るまで東北生理学談話会とよばれるようになっていく。開催地は1年毎に仙台、仙台以外という方針がとられてきた。仙台で開催するときは、交通の便もあって比較的演題数が多い傾向にあるが、仙台以外で行った場合には当番幹事の努力によって何かとサービスがよく、談話会のムードも、また、そのあとの懇親会も盛大であった。これまでの経過をまとめると、表のようになる。

一般演題の講演は時間を十分にとっていることや、割合に時間に捉われずに発表する傾向があり、どの場合も予定の時間をオーバーする傾向があって、あとの懇親会を気にしている当番幹事をやきもきさせたが、これは嬉しい現象でもあり、今後も続くのではないだろうか。また、時折、特別講演も行われて、出席者に強い印象を与えている。特別講演数は必ずしも多くはないが、第6回には東北大学工学部の松尾正之教授が、第9回には岩手医大の佐藤誠教授と山形大学の西山明德教授が、また、第14回には東京大学の星 猛教授が行っている。

このように、東北地区における生理学の地方会（東北生理談話会）はそのスタートからの歩みは遅々としたものがあったが、次第にその速度を上げつつあり、各大学の生理学教室の充実と相まって、現在では完全に定着し、恰も年中行事のように、盛大に行われるようになった。特に、この東北生理談話会のもち方にも当番幹

事がそれぞれ特色をつけるという努力もあって、特色ある楽しい生理学談話会に成長したように思われる。今後はマンネリズムにならないようにというくふうが求められるのではなからうか。

東北生理学談話会の開催の経過

回	開催日	当番校	当番幹事	開催地	演題数
1	昭和43	東北大学	鈴木泰三	仙台	
2	44. 6	東北大学	田崎京二	松島	
3	45. 7	岩手医大	三田俊定, 八木舎四, 高下弘夫	盛岡(すずらん会館)	11
4	46. 9	東北大学	田崎京二	仙台(東北大学医学部)	12
5	47. 7	福島医大	横山正松, 塚原進	福島(あづま荘)	10
6	48. 7	東北大学	中浜博	蔵王温泉(やまびこ荘)	15
7	49. 10	弘前大学	尾崎俊行, 鈴木寿夫	弘前(弘前大学医学部)	14
8	50. 8	東北大学	星 猛	仙台(長陵会館)	18
9	51. 10	秋田大学	小川哲朗, 古谷野速雄	秋田(八郎瀧ハイッ)	20
10	52. 10	東北大学	青木健	作並温泉	29
11	53. 10	東北歯科大学	葛西四朗	二本松(岳温泉)	19
12	54. 10	東北大学 応用情報研究センター	塚原保夫	釜房(憩の家)	25
13	55. 10	山形大学	望月政司, 西山明德	天童(出羽路会館)	19
14	56. 11	東北大学	鈴木泰三	仙台(長陵会館)	30
15	57. 7	岩手医大	八木舎四	盛岡(岩手医大)	16
16	58. 11	東北大学	西山明德	仙台(長陵会館)	30
17	59. 11	福島医大	塚原進	福島(飯坂温泉)	28

【お知らせ】

## 評議員候補者の推薦について

本会評議員のご推薦は多年本会々員である方で、候補者の略歴、現職歴、研究歴（満5年以上、現在生理学の研究をしている方）、研究業績目録と本会評議員1名の推薦を付けて昭和60年2月20日までに1984年度

生理学論文表題集の原稿とは別便にて、評議員候補者推薦と明記の上、学会事務所宛お送り下さい。

なお、メ切後のご推薦は、次年度回しとなりますのでご諒承下さい。

## 第26回藤原賞受賞候補者ご推薦依頼

謹啓 いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。

財団法人藤原科学財団は、故藤原銀次郎翁が寄附された私財1億円を基金として、昭和34年創設されたものでありまして、わが国に国籍を有し、科学技術の発展に卓越した貢献をされた方に、藤原賞（賞状、賞牌および副賞）を昭和35年以来毎年1件ずつ贈呈して参りました。現在は賞を2件とし、副賞として各1千万円を贈呈しております。

今回引続き第26回受賞候補者を募集いたします。つきましては、ご多忙中恐縮に存じますが、下記事項ご覧の上、適当な候補者をご推薦下さるようお願い申し上げます。

なお、第26回選考委員は次のとおりであります。

藤井 隆（委員長）、茅 誠司、兼重寛九郎、吉識雅夫、高村象平、杉村 隆、西島和彦、国尾武、土橋源一、田村学造、森 亘（敬称略、順不同） 敬 具

記

1. ご推薦の対象は、自然科学分野に属するものとします。

2. 被推薦者は、ほかに賞を受けられた方でも、また前に推薦された方でも結構です。

3. 被推薦者は原則として1件1人とし、共同研究者を是非あげねばならぬ場合はその理由を明記して下さい。

4. 同封の推薦要項書に、必要事項を記入してお送り下さい。詳細な論文、参考資料は必要な場合にご提出を願いますから、それまではお送り下さらないよう特別にお願い申し上げます。

5. 受賞者の決定は昭和60年5月中旬とし、贈呈式は藤原翁の誕生日6月17日に行います。

6. 別に、推薦要項書ご入用のときは、当財団へご請求下さい。早速お送りいたします。

7. 推薦要項書提出締切日

昭和60年2月28日（木曜日）

（生理学会締切 2月10日）

8. 推薦要項書送り先

東京都中央区銀座4丁目7番5号

（王子ビル）〒104

財団法人 藤原科学財団 電話(03)561-7736

以上

財団法人 藤原科学財団

理事長 加藤 藤 太 郎

## 第69回近畿生理学談話会御案内

1. 日時：昭和60年2月9日（土）

午前9時30分から（予定）

2. 会 場：大阪医科大学講堂（同封の地図を参照して下さい）

大阪府高槻市大学町2-7

尚、会場では、スライドプロジェクターの他にオーバーヘッドプロジェクター

（OHP）を用意します。御利用下さい。又少数のポスターセッションコーナーを設けます。ポスターセッションを御希望の方は、お申出下さい。

3. 演題申込み：12月22日（土）必着のこと。

演題を申込まれる方は、原稿を同封の書式にしたがってタイプ又は黒インクでお

書きのうえ、お送り下さい。そのまま印刷に使用致します。

口演時間は、討論を含め15分間を予定致しております。

4. 参加者申込み：参加御希望の方は、教室単位で、参加者及び評議員会出席者の氏名を同封用紙に御記入のうえ、12月22日までに下記宛お申込み下さい。

〒569 大阪府高槻市大学町2-7

大阪医科大学生理学教室 藤本 守

電話 0726-83-1221, 内線 654, 656

プログラムと予稿集は印刷が出来次第、

参加お申込みの方宛にお送りする予定です。

5. 評議員会：昼食時(正午～午後1時)

大阪医科大学臨時会議室で開催します。議題は予め御連絡下さい。

6. 会 費：一般会費 1,000円, 予稿集代 1,500円,

評議員会昼食代 1,000円

会費は同封の振替用紙に内訳を御記入のうえ、12月22日までに御送金下さい。

口座番号 大阪 0-8728 番

加入者名 第69回近畿生理学談話会

日本生理学会常任幹事 順天堂大学教授 真島英信君は、昭和59年12月7日ご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

#### 【編集後記】

昨年(昭和58年)の生理学会大会(阪大)が数えて第60回、人間の年輪からいえば還暦に当たる。この期に日本生理学会60年の歩みをふり返ってみるのも意味深いことで、第46巻にはそれらを特別企画として掲載したわけである。

第1号には、「現代日本生理学会—その発展と展望—」を、更に11号、12号には本企画のしめくくりとして、生理学会の地方会である各生理学談話会の歴史的推移についての特集をおとどけた。御執筆をいただいた各氏に厚く御礼を申しあげる。

本特別企画の一環として計画されていた「余外集」と「試道集」の複製版がようやくできあがり、予約さ

れている方には既にお手許にとどいたと思う。余外集、試道集が何んたるかを知らない方もあろうかと思うが(私もそうであるが)、11号の市河先生の「東京談話会小史」に詳しく述べられているのでそれを参照していただきたい。現在余分が約30部あるので、もし希望される方は学会事務局まで申し込んでほしい。

12月7日、真島英信教授が他界された。先生は日本の生理学会に偉大な足跡を残された方でその死は惜しみても余りある。先生の書かれた「生理学」はけだし名著であり、いつまでも医学生に親しまれることであろう。先生の御冥福を心からお祈りする次第である。

第46巻を終わるに当たり、会員の皆様に対し、来たるべき昭和60年もよき年でありますよう心からお祈りする。  
(登坂恒夫)

#### 編 集 委 員

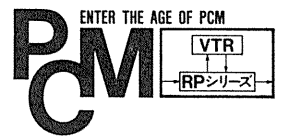
酒井敏夫(幹事)  
登坂恒夫  
黒島晨汎(北海道)  
永坂鉄夫(中部)  
堀哲郎(九州)

上山章光  
中村嘉男  
西山明德(東北)  
藤本守(近畿)

田中勳作  
平野修助  
新島旭(関東)  
村上憲(中・四国)

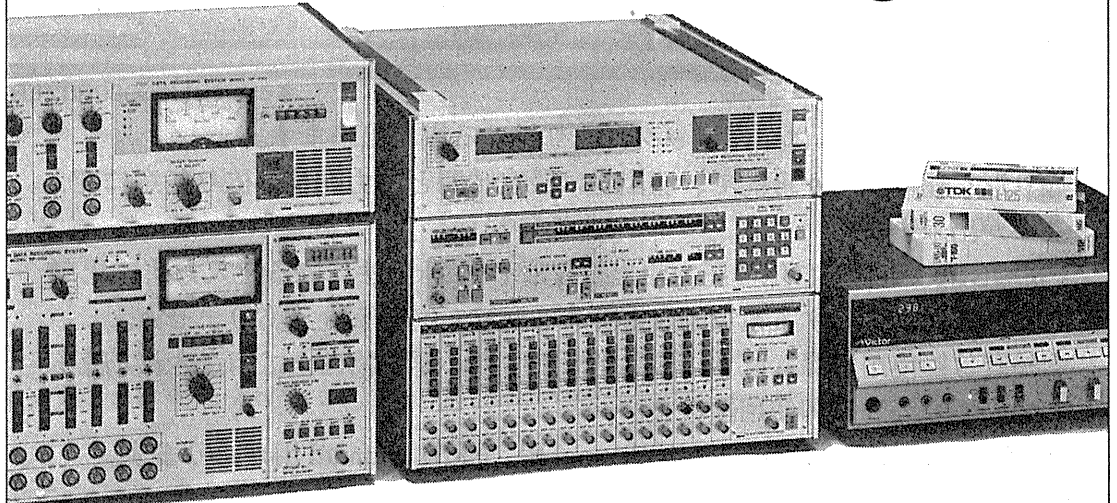
エヌエフのデータレコーダが  
PCM方式なのは、  
PCMにしか出来ないことが、  
いろいろあるからです。

# DATA RECORDER



▼RP-880

▼RP-890シリーズ



▲RP-882

GP-IB

エヌエフの《PCMデータレコーディングシステムRPシリーズ》なら、

- ①データの品質が素晴らしい。[テープ、メカ性能に影響されないPCM方式だから]
- ②ランニングコストが安い。[市販のVTRやカセットテープを使うシンプルシステムだから]
- ③多現象の同時記録ができる。[最大128チャンネルまで拡張可能だから]
- ④取扱いが簡単。[ゼロ点調整などが不要だから]

など、PCM方式の圧倒的な利点の上に、エヌエフならではのアイデアが満載されています。

《PCMデータレコーディングシステムRPシリーズ》には、

- 4チャンネルの普及モデル《RP-880》
- 8チャンネルの標準モデル《RP-882》
- 多チャンネルの最高級モデル《RP-890シリーズ》

が用意されています。詳細は、045-542-0411まで、お気軽にお問い合わせください。

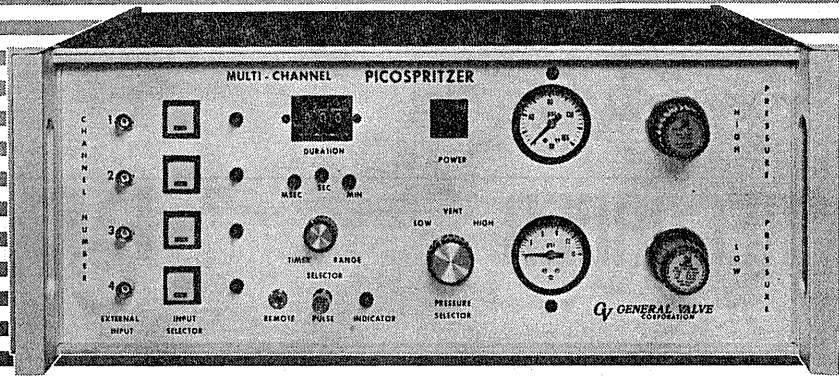
**エヌエフ** 25周年

株式会社エヌエフ回路設計ブロック

本社・工場・横浜市港北区綱島東6-3-20 〒223 TEL.045(542)0411(営業直通)  
札幌011(716)1660 水戸0292(52)4411 西東京0425(73)1277 名古屋052(701)3136  
大阪0726(23)5341 広島082(243)0337 福岡092(411)4301

# PICOSPRITZER

圧力駆出に依る細胞内及び細胞外に  
極微量(ピコリター単位) 試薬押出装置



4 channel PICOSPRITZER

PICOSPRITZER は標準ラックに取り付ける事が出来ます。

繰り返し連続使用が可能で、駆出量は設定時間と圧力調整に依り任意に変える事が出来ます。

PICOSPRITZERに依る圧力駆出装置はイオン泳動法に依る注入方法に比較して神経組織に対する電氣的な影響を心配する必要が全くありません。

本装置は御使用に際し直ちに稼動出来ます様必要な物は全て用意されて居り、亦廉価で経済的に御使用頂けます。

PICOSPRITZERにはSingle channel用、multi channel用があります。

## ■仕 様

電 源 : 115 V A.C. 50, 60 Hz

電 流 : 1 Amp. max

消費電力 : 15 watts. max

電 源 コ ー ド : 8 feet

操 作 圧 力 範 囲 : 0-100 PSIG

圧 力 パ ル ス 信 号 : 2 ms~999 ms

タ イ ム マ ー ク シ グ ナ ル : 1 ~ 30 mv

**GV GENERAL VALVE CORPORATION**

日本韓国総代理店 ユニバーサルシステム コントロールズ株式会社

本 社 〒150 東京都品川区東五反田 5-28-12 東商ビル6F  
TEL 03-447-3581(代)

大阪営業所 〒532 大阪市淀川区西中島6-1-26 大旺第一ビル407号  
TEL 06-305-0335(代)

名古屋営業所 〒464 名古屋市中村区則武1-10-6 側島ノリタケビル506号  
TEL 052-452-1923(代)

熊本営業所 〒862 熊本市白山2-1-1 白山堂ビル303号  
TEL 096-366-5100

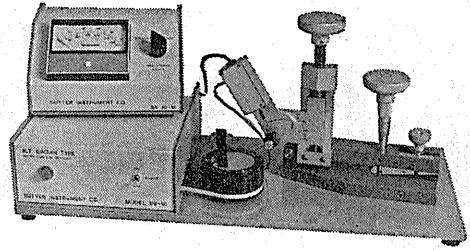
和光事業所 〒351 埼玉県和光市下新倉 2042  
TEL 0484-65-2401

# Sutter Instrument

(日本総代理店)

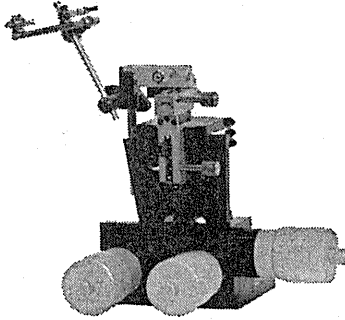


BROWN—FLAMING TYPE  
MICRO—ELECTRODE PULLER  
P—77B型 (本体価格：180万円)



K.T.BROWN TYPE  
MICRO—PIPETTE BEVELER  
BV—10型 (価格：92万円)

## 高性能3次元マイクロマニプレーター (製造元)



### 特徴

- ウルトラ・ファインな動き  
最小目盛2ミクロンのマイクロメーター  
+1/10リダクションレバー
- 優れた操作性  
全て板バネによるメカニズム
- バックラッシュフリー

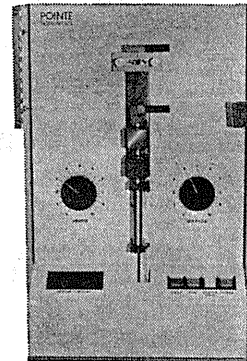
価格：70万円(右・左手共)

## POINTE INSTRUMENTS

(日本総代理店)

- 2段タテ引き  
第1段階は重力、第2段階はソレノイド
- ヒーター電流はデジタル・ディスプレイ
- サンプルホールド回路によりソレノイド  
引き時のヒーター電流値を記憶し、その  
値をデジタル・ディスプレイ
- パッチクランプ用キャピラリィ作成附属品  
本体価格：69万円

## PIPET PULLER 3000型



販売元



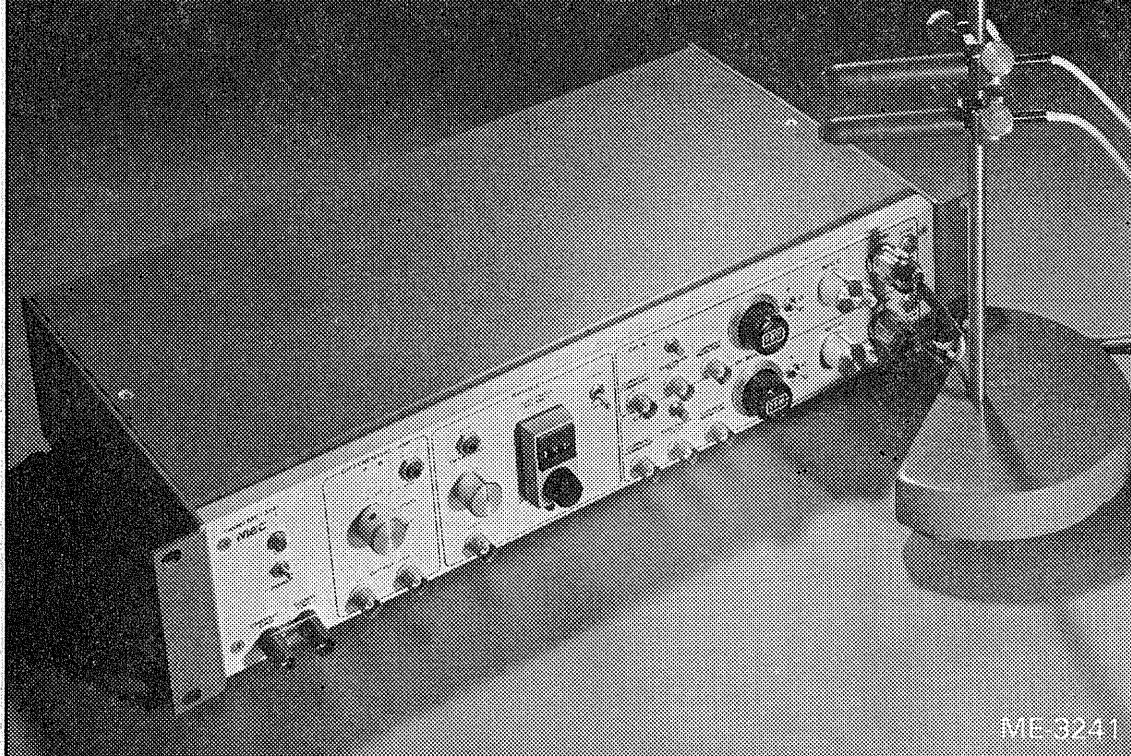
ショーシンEM株式会社

〒444 愛知県岡崎市羽根東町2丁目8番地の5  
福樹ビル

TEL (0564) 54-1231番

# 高度化する細胞電位の研究に

MEC細胞電位計測システム



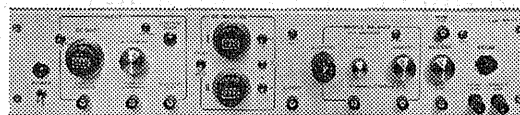
ME-3241

ガラス電極など微小電極をもちいた各種細胞電位の研究に、高い精度と使いやすい機能をもつ機器ラインをそろえています。

2点間の電位差をダイレクトに示す

## 差動型微小電極用増幅器

ME-3241 差動増幅器内蔵 デジタル直読 刺激通電機構つき

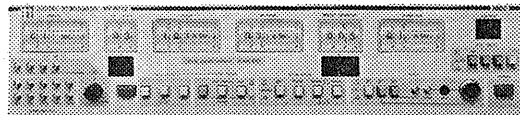


ME-3221

色素注入も可能な高性能タイプ

## 微小電極用増幅器

ME-3221 DCシフト 2chDCバックリング 刺激通電機構つき



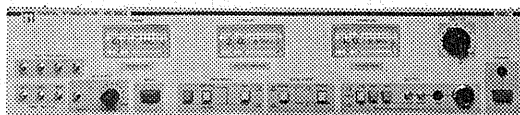
ME-6012

高い精度をもたらすデジタル設定

## デジタル刺激装置

ME-6012 出力モード4種 時間パターン4種 振幅変調可能

ME-6052 ダブルパルス出力 MIXING機構つき



ME-6052



株式会社

**エム・イー・コマーシャル**

本社：〒166 東京都杉並区和田3-54-11 ☎(03) 317-1451(代表)

大阪営業所 ☎(06) 380-2601 福岡営業所 ☎(092) 474-1878 広島営業所 ☎(082) 292-3581 名古屋営業所 ☎(052) 451-3255

抜群の総合処理スピード

# パワフルなハード 充実のソフト

多チャンネル高速処理で定評のある7Tシリーズの最高機種7T17は発売以来多くのユーザーにご使用いただいております。その実績から優れたアプリケーションプログラムが次々と生まれ、オンライン処理プログラムを作成できるSignal BASICと共にさらに完成度を高めました。

- 入力には広帯域(DC~100KHz)4ch、中帯域(DC~8KHz)16chを装備
- エディタ機能の充実したSignal BASICは多チャンネルのオンライン処理プログラム作成に威力を発揮
- ゆとりある実装メモリ容量512KByte、4MByteに増設可能(本体内蔵)
- プログラムやデータのファイルに便利なフロッピーディスクを内蔵
- 画面を総てハードコピーできるサーマルプリンタを標準付属

## シグナルプロセッサ 7T17

豊富なアプリケーションプログラム ● 16chアベレージ、16chパワースペクトル(標準付属) ● パワースペクトルアレイ処理(周波数帯域別分類付) ● 脳波等電位分布図処理(周波数帯域別分布図) ● 誘発電位分布図処理 ● ノイズ処理プログラム(PST, CORRELATION, INTERVAL) ● 聴性誘発反応処理(L-Hカーブ) ● 筋電図処理(運動単位電位、干渉波) ● ニスタモグラフ処理(自発、視運動性、温度性、滑動性、サッケード眼振) ● 重心動揺検査プログラム(平衡神経学会検査基準に準拠)



日本電気三栄

〒160 東京都新宿区大久保1-12-1  
☎03(209)0811(代表)

**新製品** 米国ラジオニクス社製

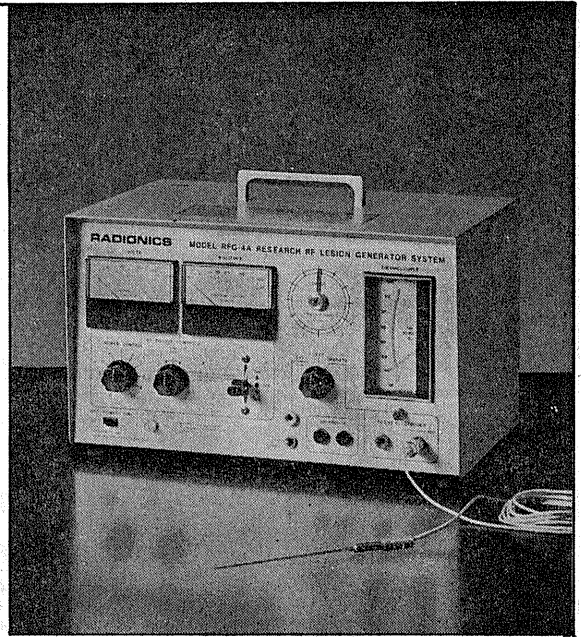
# 待望の“0.25mm”

**動物用**

## リージョン・ジェネレータ MODEL RFG-4A

直径0.25mmのTC電極により、今迄行ないにくかった極めて微少の損傷作成が可能になりました。

- Lesion Generatorによる損傷は、小動物の脳組織の損傷に適しており、また手技が極めて簡単です。
- いかなる損傷条件(損傷温度、損傷時間)でも生体組織に出血をひきおこすことはありません。
- 熱センサーによって損傷組織の温度を正確にコントロールすることができ再現性、均一性に優れた損傷巣を作製することができます。
- 50°C以上の損傷条件では、損傷温度が高ければ高いほど、また損傷時間が長ければ長いほど大きな損傷巣を作製することができます。
- 外部の刺激装置と本体を接続することにより、同一電極から電気刺激を与えることもできます。



輸入発売元

### 室町機械株式会社

〒103 東京都中央区日本橋室町4の3(大辻ビル)  
TEL 03 (241) 2 4 4 4 (代表)

実験動物脳内酵素瞬時不活性化装置

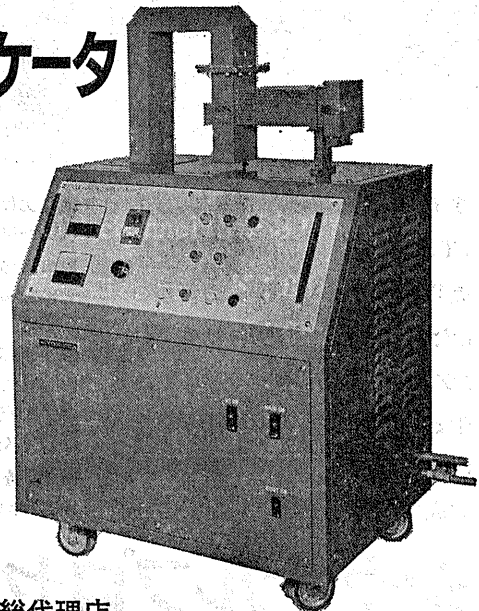
## 東芝マイクロウェーブアプリケータ MODEL TMW-6402A

実験動物の脳内物質の測定に先立ち、測定物質に関連する諸酵素を不活性化する方法として凍結法があります。しかしながら凍結法では生体内酵素を不活性化させるまでかなりの時間を必要とし、この間に測定物質が変化するおそれがあります。

この解決方法としてマイクロウェーブの瞬時照射により諸酵素を不活性化する方法が広く用いられるようになりました。照射後は凍結法で行なわれる低温処理の必要もなく、室温にて処理ができ、安定した測定値が得られます。特に部位別の測定を行なう場合には大変有用です。

- アセチルコリン ● サイクリックAMP ● サイクリックGMP ● GABA ● DOPA ● 5-HTP ● セロトニン
- カテコールアミンとその代謝産物 ● エンドルフィン
- プロスタグランジン

などの正確な測定の前処理装置として、薬理学・生化学・生理学・内科学など広い分野に御活用いただけます。



日本総代理店

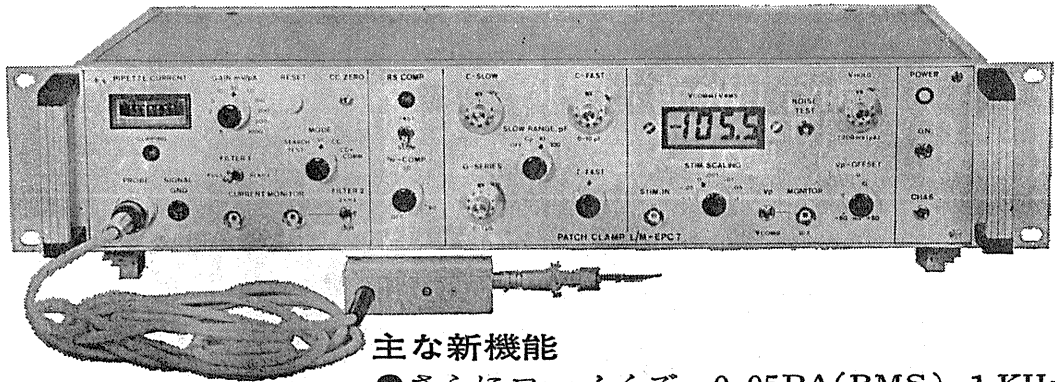
### 室町機械株式会社

〒103 東京都中央区日本橋室町4の3(大辻ビル)  
TEL 03 (241) 2 4 4 4 (代表)

新製品 F.J.Sigworth・E. Neherのオリジナル

西独リスト社

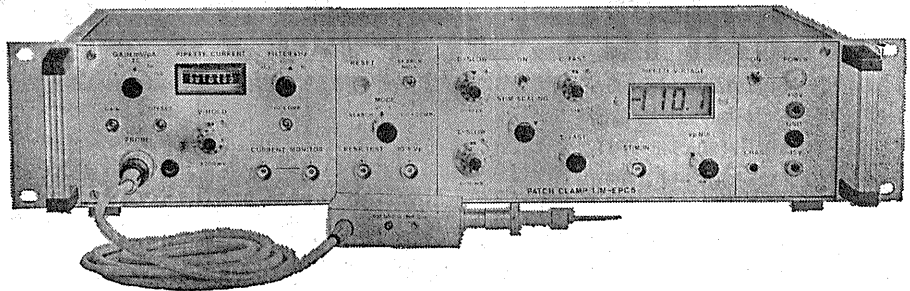
# パッチクランプシステム EPC-7



## 主な新機能

- さらにローノイズ    0.05PA(RMS) 1 KHz  
                                  0.30PA(RMS) 10KHz
- 2レンジ切換            50GΩ    200PA  
                                  500MΩ   20nA
- Rs COMPENSATION 1~100MΩ
- 独自のTRANSIENT CANCEL機能

## 姉妹機 EPC-5型



東日本地区発売元

(Physio-Tech)

株式会社 フィジオテック

〒101 東京都千代田区内神田3丁目6番2号トリサキビル5F  
TEL 03(258)1641(代)

西日本地区発売元



WORLD MEDICAL CO., LTD.

株式会社 ワールド・メデカル

〒461 名古屋市東区葵1丁目25番1号ニッシンビル701  
TEL 052(937)7060

デジタル・オシロスコープ

model 2090シリーズ

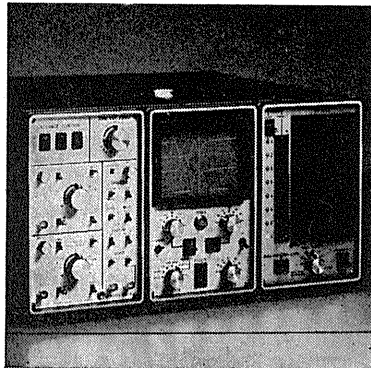


# 50MHz・2CH同時サンプリング

model 2090シリーズに新製品“model 205A 50MHz高速プラグイン”が加わりました。最高サンプル・レートは50MHz (20nSec/Pt)、2ch同時サンプリングでもそのスピードは変わりません。

また他のプラグインと互換性があるため、プラグインの購入だけでお手持ちの2090シリーズが高速タイプになります。

model 205Aの登場で2090シリーズがさらに充実しました。高分解能プラグイン(206-2)、4chプラグイン(207-4)とアプリケーションに応じて使いわけてください。



model 205A高速プラグイン仕様

- 50MHz高速サンプリング
- 8ビット/2チャンネル入力
- 4Kワード本体メモリ
- カーソルによるプリトリガ設定
- セーブ・リファレンス機能

基本モデル 2090-2/205A ¥3,380,000

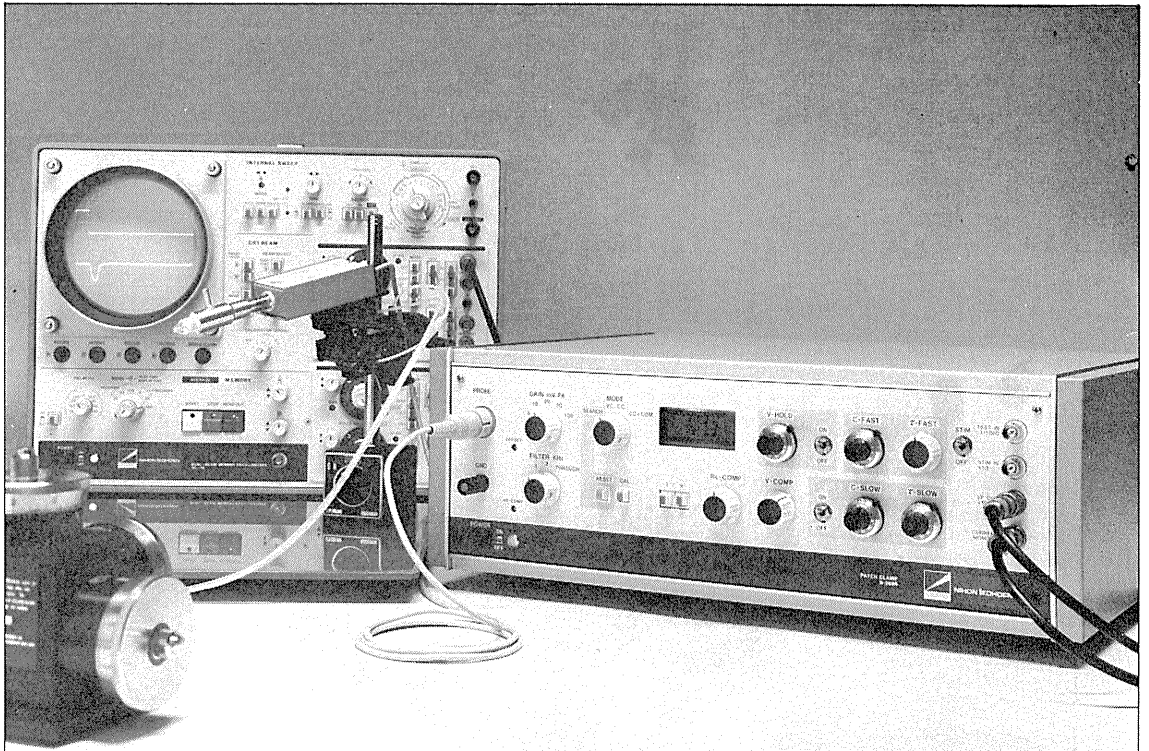
プラグイン・シリーズ

- model 204A : 2ch/20MHz/8ビット
- model 205A : 2ch/50MHz/8ビット
- model 206-2 : 2ch/2MHz/12ビット
- model 207-4 : 4ch/100KHz/12ビット
- または 2ch/2MHz/12ビット

■資料請求・製品デモのご依頼をお待ちしています。

**NTE Nicolet**

ニコレー・ジャパン(株) 東京都目黒区東山1丁目1番2号 東京☎03(715)2551 大阪☎06(863)1550 名古屋☎052(741)2150



# パッチクランプ法にこの一台!

## New パッチクランプ用増幅器

### S-3666

〈特長〉

1. Whole-cell clamp時にクランプ速度を補正できます (series resist comp.)。
2. head stageの容量を補正するtransient cancellationは、fastとslow (OFF付)が有り、電極に応じて補正できます。
3. シールを確認するために、command inputとは別に、test pulse input ( $\frac{1}{1000}$  OFF付) が付いています。
4. 分極電圧を自動的に補正します (search mode)。
5. 入力回路の高域特性をcheckするための三角波発生回路を内蔵しています。
6. 電極ホルダが付属しています。

〔定価 40万円〕

エレクトロニクスで病魔に挑戦する



**日本光電**

本装置の外観・仕様は改善のため、お断りなく変更することがあります。予めご了承ください。東京都新宿区西荻会1-31-42203(953)1181

J. Physiol. Soc. Japan Vol. 46, No. 12 (1984)

昭和五十九年十二月二十日印刷

編集兼  
 発行人

酒井敏夫  
東京都文京区本郷三三〇一  
 布池ビル(四階)  
 日本生理学会

印刷者  
 印刷所

三浦経夫  
山形県鶴岡市山王町一四一二  
 鶴岡印刷株式会社

発行所

日本生理学会  
〒一三三  
 東京都文京区本郷三三〇一  
 布池ビル(四階)

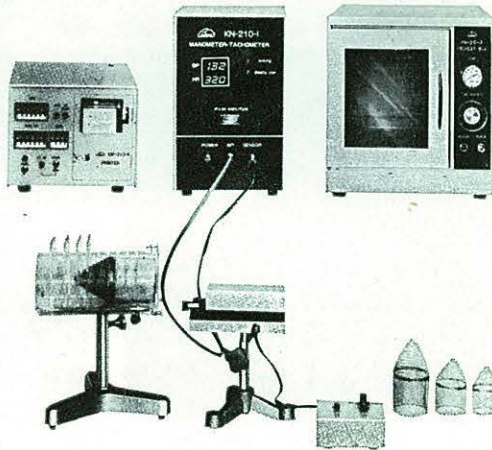
電話  
 振替  
 価  
 東  
 京  
 三  
 七  
 八  
 六  
 四  
 三  
 〇  
 〇  
八二五  
 一六二  
 四〇

# ラット尾動脈圧・脈拍測定装置 KN-210

非観血的にラットの尾動脈圧を測定するデジタル血压計です。

**NEW** RAT TAIL MANOMETER-TACHOMETER SYSTEM

- 加圧時測定方式
- 再現性抜群
- ワンタッチ測定



- 構成
- KN-210-1 血压計・脈拍計  
 (センサー、コントローラー付)
  - KN-210-2 ラット固定器
  - KN-210-3 予熱箱
  - KN-210-4 プリンター

理化学器械・基礎医学器械・実験動物飼育機械器具・薬学研究器械・医科器械一般



株式会社 夏目製作所

〒113 東京都文京区湯島2丁目18番6号  
 電話 03 (813) 3 2 5 1 (代表)